

和仏法律学校講義録

山口, 弘一 / 若槻, 禮次郎 / 下村, 宏 / 栗津, 清亮 / 富
谷, 銈太郎

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

2-16

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

55

(発行年 / Year)

1900-09-25

和佛法律學校

講義錄

第貳部

第拾六號

商法保險 (自一〇九至一六九) 法學士粟津清亮

商法手形 (自一四四至一四七) 法學士富谷銈太郎

財政學 (自二九七至三六六) 法學士下村宏

國際私法 (自二〇五至二〇七) 山口弘一

現行租稅法論 (自一七八至一八〇) 法學士若槻禮次郎

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3

東京帝國大學 法學博士 梅謙次郎先生序文
法科大學教授 入江良之先生譯述

(九月十五日發行)



全 正價金七拾五錢
一 特價(校友生徒ニ限
リ)金六拾五錢
郵税金八錢
冊 郵券代用一割増

近時涉外事件日ヲ遂フテ多ク國際私法ノ研究ハ實ニ刻下ノ最急務ナリ然ルニ我邦之ニ關スル良著
ニ乏シク學者頗ル不便ヲ感セリ本書ノ原著ハ嘗テ久シク萬國國際法協會長タリシ故白耳義ブリユ
クセル大學教授リヴィエー氏カ有名ナル和蘭ノ碩學アツセル氏ノ著述ニ増註シタルモノニシテ原
著ノ眞價ハ此ニ喋々スルヲ要セス歐洲ノ學者間既ニ定評アリ而シテ我カ入江氏ハ斯法專攻ノ士ナ
リ之ヲ譯スルニ精練ノ文ト的確ノ語ヲ以テス惟フニ斯法研究者ノ急需ニ應スルコトヲ得ン

發行所

東京麹町區富士見町
六丁目十六番地

發賣所

東京市神田區裏神保
町七番地

和佛法律學校
明法堂

再

明約セサルヘカラス而シテ其拂込方法或ハ一年分ヲ一時ニ前納スヘキカ又ハ
半年分、三分分、一月分宛等ヲ納付スヘキカ等ノコトヲ記載スルモノトス

四 危險

保險契約者カ想像スル所ノ危險ノ種類及ヒ範圍ヲ記載セサルヘカラス例ヘハ
海上保險ニ於テ共同海損及ヒ特約海損ノ就レカ又ハ兩ナカラテ保證セシムル
コトヲ記載シ生命保險ニ於テ保險ノ種類ヲ記載スルカ如シ

五 期間

保險契約者カ自己ノ望ム所ノ保險期間ヲ提供スヘキハ勿論ニシテ敢テ説明ヲ
要スルコトナシ

上記ノ如キ申込書ヲ作リテ之ヲ保險者ニ提出スルノ外保險者ノ質問ニ對シテ
陳示スルノ義務ヲ有セ此等ノ記載及ヒ陳示ハ悉ク善意ニシテ且ツ錯誤ナキヲ
要スルコト勿論ナリ之ヲ開陳責任ト稱シ我商法第三百九十八條ニ之ニ關スル
規定アリ即チ保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要
ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ其契約

090
1900
2-1-16

再

明約セサルヘカラス而シテ其拂込方法或ハ一年分ヲ一時ニ前納スヘキカ又ハ
半年分三月分一月分宛等ヲ納付スヘキカ等ノコトヲ記載スルモノトス

四 危險

保險契約者カ想像スル所ノ危險ノ種類及ヒ範圍ヲ記載セサルヘカラス例ヘハ
海上保險ニ於テ共同海損及ヒ特損海損ノ孰レカ又ハ兩ナカラテ保證セシムル
コトヲ記載シ生命保險ニ於テ保險ノ種類ヲ記載スルカ如シ

五 期間

保險契約者カ自己ノ望ム所ノ保險期間ヲ提供スヘキハ勿論ニシテ敢テ説明ヲ
要スルコトナシ

上記ノ如キ申込書ヲ作リテ之ヲ保險者ニ提出スルノ外保險者ノ質問ニ對シテ
陳示スルノ義務ヲ有セ此等ノ記載及ヒ陳示ハ悉ク善意ニシテ且ツ錯誤ナキヲ
要スルコト勿論ナリ之ヲ開陳責任ト稱シ我商法第三百九十八條ニ之ニ關スル
規定アリ即チ「保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要
ナル事實ヲ告グス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ其契約

トニ依リテ證據立テラルルカ如シ
上達ノ如ク保險證券ハ法律上必要ナル書類ニハ非サレトモ保險契約者力之カ
交付ヲ請求シタルトキハ保險者ハ之ニ應セサルヘカラス面シテ又之ヲ發行ス
ル以上ハ法律ノ要求スル所ノ事項ヲ記載セサルヘカラス而シテ此ノ如ク強制
的ノ規定ヲ設ケタルハ全ク保險取引上ノ慣習ヲ重ンシ成文ヲ以テ此慣習ヲ保
護スルノ趣意ニ出タルナリ
保險證券ニ記載スヘキ事項ハ商法第四百三條第四百二十五條第四百三十條第
六百六十一條ニ規定セリ今其要領ヲ説明スヘシ
第四百三條 保險者ハ保險契約者ノ請求ニ因リ保險證券ヲ交付スルコトヲ
要ス
保險證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ保險者之ニ署名スルコトヲ要ス
一 保險ノ目的
二 保險者ノ負擔シタル危險
三 保險價額ヲ定メタルトキハ其價額

四 保險金額

五 保險料及ヒ其支拂ノ方法

六 保險期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期

七 保險契約者ノ氏名又ハ商號

八 保險契約ノ年月日

九 保險證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

本條ハ損害保險一般ニ付テ規定スル所ノモノニシテ左ニ之ヲ説明スヘシ

(一) 保險ノ目的トハ保險契約ニ依リテ保護セラルヘキ目的即チ火災保險契約ニ於テハ保險ニ付セラレタル家屋家畜保險ニ於テハ被保險牛馬債權保險ニ於テハ貸借契約ノ包容等ニシテ之ヲ表明スル所ハ事項ヲ記載スルノ謂ナリ然レトモ保險ノ目的ナル文字カ此意即チ舊商法ニ於ケル被保險物ノ十分精密ナル記載ニ該當スト云フコトハ頗ル六ヶ敷用語ニシテ予ハ商法修正案參考書ヲ讀ミタ始メテ之ヲ解スルヲ得タル位ナリ

(二) 保險者ノ負擔シタル危險トハ保險ノ種類ヲ示スモノニシテ火災ノ危險トカ

海上ノ危險トカ或ハ其内譯中保險者カ填補ノ責ニ任スル所ノ危險ノ種類ヲ記載セシムルノ意ナリ

(三) 保險價額トハ所謂保險ノ目的ノ價額ニシテ之ヲ限度トシテ填補ノ行ハル所ノ價額ナリ而シテ此價額ハ世間ノ相場ニ由リテ自ラ定マルヘキモノナレトモ後ノ紛議ヲ避クル爲メ契約ノ際ニ當事者カ確定シ置タテ便利ナリトス故ニ之ヲ定メタルトキハ又之ヲ記載セシムルナリ

(四) 保險金額トハ保險者カ事故ノ發生ニ當リテ供出スヘク約スル所ノ金額ニシテ之ヲ定ムルコトハ一般普通ノ慣習ナリ但シ生命保險病傷保險等ニ於テハ總テ豫定ノ保險金金額ヲ支拂フモノナルカ故ニ必ス保險金額ヲ定ムル必要アリト雖モ損害保險ニ於テハ所謂實損額ヲ計算シテ賠償ヲ行フモノナルカ故ニ必スシモ保險金額ヲ定メ置タテ要セス管ニ要セサルノミナラス實際定ムルコトヲ得タル場合頗ル多シ故ニ損害保險證券ニ保險金額ヲ必ス記載セシムルコトハ少シク實際ニ疎キ仕業ト謂ハサルヘカラサルナリ例ヘハ火災保險ニ於テ倉庫中ノ貨物ヲ保險スルノ契約ヲ締結スルニ方リ貨物ハ常ニ新陳交付シテ保險

金額モ亦常ニ變動スルモノナルカ故ニ之ヲ一定シ置クコトヲ得ス故ニ保險金額ハ之ヲ定メスシテ契約ヲ締結シ之ニ對スル保險證券ヲ交付シ置キ保險金額ハ他ノ方法ニ依リ何時ニテモ之ヲ知ルコトヲ得トスルコト多シ又海上保險ニ於テモ船舶カ發港スル毎ニ検査シテ一保險契約ヲ結フノ煩ヲ避クル爲メ商業信用ノ發達シタル所ニ於テハ常ニ其船カ積ミ出ス式ノ貨物ニ付テ保險スト云フカ如キ契約ヲ結フコト多ク又外國ヨリ自國へ歸航セントスル船舶ノ貨物ヲ保險セントスル場合ハ如キニハ保險金額ヲ定ムルコトヲ得サルナリ總テ此ノ如キ場合ニハ自由證券^{フリー・ポラシ}ヲ以テ契約スルモノニシテ又不定額證券ト稱シ之ニ對シテ定額證券アリ

(五) 保險料及ヒ其支拂ノ方法モ亦前項ト同シク必スシモ確定セラルヘキモノニ非ス例ヘハ最後ノ例ニ於ケルカ如キ保險ノ目的ノ價額スラ分明ナラサル場合ニ保險料ノ額ヲ確定スルヲ得ヘケンヤ且ツ又保險料ハ第三節保險料ノ項中ニ述ヘタル如ク賦定セラルル場合アリテ之ヲ明定セサレハ保險證券ヲ發行スル處ハストハ甚タ窮屈極マレル規定ト謂ハサルヘカラサルナリ支拂ノ方法トハ

前掲後掲一時拂分割拂等ノコトヲ指シ之ヲ記載セシムルコトハ至當ナルヘシ
(六) 保險期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期ナル文句モ亦少シク説明ヲ要スヘキ所ノモノナリ保險期間トハ其間保險者カ損害填補ノ責任スル所ノ時期ニシテ這ハ保險契約ノ要素トシテ當事者カ必ス之ヲ定ムヘキモノナレトモ法定ノ期間性質上當然ノ期間等ノアルコト雖ニ述ヘタル如クナレハ當事者カ定メサル場合モ亦想像セラルルナリ是ヲ以テ第六號ノ規定ヲ設ケタルナルヘシ
(七)(八)(九)ハ別ニ説明ヲ要セスシテ明カナリ但シ(九)ニ於テ保險證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日ヲ能態記載セシムルコトハ少シク御叮嚀ニ失セリトノ評ヲ免ルヘカラサルナリ
以上九項ノ外尙ホ保險種類ノ異ナルニ因リテ特種ナル事項ノ記載ヲ必要トシ即チ火災保險ニ付テハ第四百三十二條運送保險ニ付テハ第四百二十五條生命保險ニ付テハ第四百三十條及ヒ海上保險ニ付テハ第六百六十一條ノ規定アリ而シテ其中不思議ニ感セラルルハ火災保險證券ニ特ニ掲ケヨト命スル所ノ二項ニシテ即チ

一 保險ニ付シタル建物ノ所在及ヒ用方

二 動産ヲ保險ニ付シタルトキハ之ヲ納ルル建物ノ所在構造及ヒ用方
是ナリ是等ハ先ニ掲ケタル保險ノ目的中ニ包含セラルヘキモノニシテ是等ヲ
掲ケサレハ保險ノ目的ノ記載ヲ違タル能ハサルナリ
又曖昧ニシテ疑義ヲ生セシムル虞アルハ生命保險證券ニ特ニ掲ケヘキ保險金
額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メタルトキハ其者ノ氏名及ヒ其者ト被保險者トノ親族
關係ニシテ我商法ハ生命保險金ヲ受取ルヘキ者ヲ定メサル場合ヲ想像スルカ
ヲ疑ハシメ而シテ其場合ニハ何人カ受取人ナルカ等ノ疑問ヲ惹起スノ種タリ
又海上保險證券ニ關スル特別規定即チ第六百六十一條ノ第二號ニ積荷ヲ保險
ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合
ニ於テハ船舶ノ名稱國籍並ニ種類船積港及ヒ陸揚港トアレトモ之モ亦契約
當時未タ不分明ニシテ保險證券ニ記載スルコトヲ得サル場合アリ即チ海上保
險ニ於テハ無船名證券ト有船名證券アリ前者ハ保險ニ付セラレタル積荷ヲ載
セタル船舶ノ名稱カ證券面ニ記載セラレサルモノニシテ遠隔ナル土地ヨリ賣

再

シタル後ト雖モ支拂ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ支拂ナキ場合ニ於テハ
所持人ハ拒絶證書ニ依リ呈示期間内ニ呈示ヲ爲シタルコトヲ證明スルニ非サ
レハ償還義務者ニ對シテ償還請求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(第四八二條第
二項此點ニ付テハ尙ホ後ニ述フル所アルヘシ)

此ノ如ク満期日ナルモノハ手形金額ノ支拂ハルヘキ期日ナルカ故ニ手形上ノ
債權者ハ其當日ノ午前零時ヨリ午後十二時ニ至ルマテ何時ニテモ支拂ヲ求ム
ルニ差支ナカルヘキモ若シ尙償還上取引時間ニ定限アルトキハ其時間内ニ於
テ支拂ヲ求ムルコトヲ要ス(第二八三條)

満期日トハ手形上ノ債權者カ手形上ノ金額ヲ請求シ得ル日ニシテ支拂ヲ求メ
タルヘカラサル日ニ非ス故ニ満期日ハ一般債權ニ於ケル辨濟期日ト其意義同
一ナリ然レトモ當事者ノ爲メハ頗ル重要ナル關係ヲ有スル日ナルコトヲ注
意セサルヘカラス其次第ハ左ノ如シ

- (4) 手形債權ノ時效ハ満期日ヨリ起算ス(第四四三條)
(ロ) 償還請求ニ付キ満期日ハ手形金額ニ對スル利息ヲ生スル日ノ起算點ト

爲ル(第四九一條)

(ハ) 満期日ハ支拂拒絶證書作成ノ日限ヲ定ムル起算點ト爲ル(第四八七條)

(乙) 支拂ノ場所 指圖債權ノ債務者ハ一般債務者ノ如ク其債權者ノ何人ナルカヲ豫知シ得サルヲ常トス一般ノ場合ニ於テハ人ニ對シテ債務ヲ有スル者ハ何人カ自己ノ債權者ナルヤヲ知ラサルコトナシト雖モ爲替手形ノ債務者ハ何人カ其債權者ト爲ルヤハ之ヲ豫知シ得サルヲ通例トス換言スレハ爲替手形ノ振出人ハ其受取人ノ何人ナルカハ之ヲ知ルト雖モ其後ニ於テ其手形カ何人ノ手ニ歸スルヤヲ知ルコト能ハス支拂引受人モ亦豫メ其債權者ヲ確知スルコトヲ得ス其之ヲ知ルハ其辨濟ノ請求ヲ受ケタルノ時ナリトス故ニ手形支拂ノ場所ヲ定ムルニ付テハ商行為ニ關スル一般ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ス(第二七八條第一項參照指圖債權ノ辨濟ハ債務者ノ營業所又ハ住所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトセリ)同條第二項手形債權者カ辨濟ヲ受ケント欲セハ支拂人ノ許ニ至テ其請求ヲ爲ササルヘカラス即チ手形上ニ特ニ支拂地ノ記載アレハ其地ノ營業所若シ營業所ナキトキハ其地ノ住所ニ於テ支拂ヲ請求スルコトヲ要ス若

シ手形ノ支拂地カ支拂人ノ住所地ニ非サル場合ニ於テ手形ノ支拂擔當人ノ記載アルトキハ其擔當人ニ對シテ支拂ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス若シ手形ニ支拂地ノ記載ナク支拂人ノ住所ノ記載アルトキハ住所地ニ於テ支拂ヲ求ムヘシ而シテ何レノ場合ニ於テモ支拂ノ場所ノ記載アルトキハ其場所ニテ支拂ヲ求メサルヘカラス(第四五二條乃至第四五四條第二七八條第二項參照而シテ此規定ニ依ラサリシ場合ニ於ケル制裁如何ハ償還義務ヲ説明スルニ當リテ理解スルコトヲ得ヘシ)

(丙) 支拂ノ目的 手形ハ金錢ノ支拂ヲ約スルモノニシテ金錢ニ非サルモノハ其目的ト爲スコトヲ得サルコトハ既に述ヘタル所ナリ而シテ金錢ハ手形ノ目的ナリトスルモ尙ホ其種類如何ノ問題ヲ決セサルヘカラス蓋シ手形ノ金額ハ貨幣ヲ以テスルヲ通例ナリトスルモ外國ノ貨幣ヲ以テ其金額トシ記載スルヲ妨ケサルカ故ニ手形支拂ノ目的ハ金錢ナルコトヲ知ルト同時ニ如何ニ之ヲ支拂フヘキカヲ論セサルヘカラス

(4) 手形ニ記載セル金錢ニ其種類ノ定ナキ場合 此場合ニ於テハ民法ノ規

定ニ依リ我邦ノ通貨中債務者ノ選擇ニ從ヒテ支拂ヲ以テ足レリトス(第
一條民法第四〇二條第一項)

(ロ) 金銭ノ種類ヲ限定シタル場合 例ハ金貨何圓ト云フカ如シ此場合ニ
於テハ手形ノ満期日ニ金貨ヲ以テ支拂ヲ爲スヘキコト勿論ナルモ若シ金
貨カ通用力ヲ失ヒタルトキハ他ノ通貨ヲ以テ支拂フヘキモノトス民法第
四〇二條第一項但書第二項

(ハ) 外國ノ通貨ヲ手形金額トシテ記載セル場合 此場合ニ於テハ支拂人ハ
其手形ニ記載セル外國通貨ヲ以テ支拂ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論支拂地ニ
於ケル爲替相場ニ依リ我邦ノ通貨ヲ以テ支拂フモ亦妨ケナキモノトス(民
法第四〇二條第三項第四〇三條)

第二 爲替手形金額支拂ノ請求ヲ爲ス權利ヲ有スル者及ヒ其請求ノ方法如何
何人カ爲替手形ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ルヤノ問題ニ對シ概括シテ之ヲ言
ヘハ手形所持人ナリト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ事實手形所持スル者ハ必
ズシモ其支拂ヲ請求シ得ルモノニ非ス換言スレハ手形所持人ト雖モ或場合

ニハ手形法則上其債權ヲ實行シ得サルコトアリ是レ裏書ノ節ニ於テ既ニ説明
シタル所ナリ故ニ手形所持人ノ何人ナルカヲ知ルト同時ニ如何ナル人カ支拂
ノ請求權ヲ有スルカラ了解スルコトヲ必要トス今左ニ手形金額ノ支拂ヲ請求
シ得ヘキ者ヲ列舉セン

甲 手形ノ受取人自己受取ノ手形ヲ振出シタル場合ハ振出人

乙 第一ノ裏書ニ因リテ手形金額ノ支拂ヲ受タル權利ヲ有スル者

丙 第一以後ノ裏書ニ因リテ手形金額支拂ヲ受タル權利ヲ有スル者

丁 略式裏書ニ因ル手形ノ所持人又ハ無記名式手形ノ所持人
是ナリ復タ別ニ説明スルノ必要ヲ見ス

右ノ外手形ヲ所持スル者ニシテ手形債權ヲ行フコトヲ得ル者アリ是レ諸君ノ
既ニ知ラルル如ク手形ノ買取主讓受人又ハ手形債權者ノ代理人是ナリ然レト
モ結局手形債權者ノ權利ヲ行フニ過キサルヲ以テ茲ニハ主トシテ手形所持人
カ自ラ請求ヲ爲ス場合ニ付テ説明セントス

ルヤノ點ハ既ニ總論ニ於テ説明シタル所ナリ之ヲ約言スレハ手形債權ノ證明ハ必ス其手形ニ據ルコトヲ要スト云フニ過キス但シ裏書人カ手形債權者ト爲ル場合ニ付テ一言スルノ必要ヲ認ム此場合ニ於テハ單ニ裏書アルノミヲ以テハ未タ債權ヲ行使スルニ足レリトセス其手形ニ於ケル裏書カ連續スルコトヲ要ス第四六四條所謂裏書ノ連續トハ反言スレハ裏書ニ斷絶ノ瑕疵ナキ場合ナリ此事ハ既ニ説明シタル所ナレトモ更ニ簡單ニ例示スレハ左ノ如シ

(イ) 裏書其モノニ欠缺アルトキ 例ヘハ略式被裏書人カ正式ノ裏書ヲ爲スニ當リテ自己ヲ被裏書人ト爲サザリシ場合ノ如シ

(ロ) 裏書中連續ニ必要ナル點ニ於テ裏書ノ一又ハ數箇ニ取消シアリテ其取消ニ付テハ正當ナル證明アル場合

是ナリ裏書ノ形式ニ欠缺ナキ場合ハ其裏書ハ正當ナルモノナリト推定セサルヘカラス故ニ手形ヲ譲受クントスル者ハ前裏書ニ於テ形式上欠缺ナキトキハ安シテ之ヲ受取ルコトヲ得其前者ハ果シテ正當ニ被裏書人ト爲リシヤ否ヤヲ調査スルニ及ハス蓋シ手形其他指圖債權ニ通スル必要ノ規定ナリトス抑モ

手形ハ裏書ニ依リ容易ニ移轉シ得ルニ非サレハ其效用ヲ全ウスルコトヲ得サルヲ以テ若シ其授受ノ際前裏書ノ眞偽ヲ一ニ調査セサルヘカラサルモノトセハ到底敏活ニ流通スルコト能ハサルノ結果ヲ生スルニ至ルヘケレハナリ但シ手形支拂人又ハ償還義務者ニ於テ偽造又ハ變造ニ係ルモノナルコトヲ發見セハ其關係者ニ對シテハ偽造又ハ變造ニ付テノ抗辯ヲ爲スコトヲ得ルヤ言ヲ挾タス

右ハ手形ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ル人ニ付テノ説明ナリ尙ホ茲ニ第四百六十四條ノ規定ニ付キ注意ヲ要スルモノアリ同條ニ依レハ被裏書人ハ裏書カ連續スルコトヲ證明スルニ非サレハ其權利ヲ行フコトヲ得ス或ハ曰ハン手形裏書カ連續セサルトキハ手形請求ヲ爲スコトヲ得サルコト勿論ナルヘキモ連續ヲ失レタル後ニ於テハ裏書連續者ノ間ニ於テハ償還請求ヲ爲スコトヲ妨ケサルニ非スヤト此點ニ關スル説明ハ償還請求權ノ説明ニ於テスヘシ

手形所持人カ完全ナル支拂ヲ受ケタルトキハ手形上ニ受取證ヲ記載シ且ツ其手形ヲ支拂人ニ交付スルコトヲ要ス支拂人カ手形金額ノ一部ノミノ支拂ヲ爲

サントスルトキト雖モ所持人ハ其支拂ヲ受クルコトヲ拒ムコトヲ得ス然レトモ全部ノ支拂アリタル場合ノ如キ手形ヲ還付スヘカラザルコト勿論ナルヲ以テ手形ノ原本ヲ作り之ニ支拂ヲ受ケタル金額ヲ記載シ之ヲ受取リタルコトヲ證スル書面ヲ交付スルヲ以テ足ル(第四八三條第四八四條)

第三 爲替手形ノ金額ノ支拂ヲ爲スヘキ者及ヒ其者ノ有スル權利如何
此問題ハ右ノ如ク分説スヘシ

第一 支拂人ハ何人ニ對シテ支拂フコトヲ要スルカ
第二 支拂人カ支拂ヲ爲スニ當リテ有スル權利如何

第一手形支拂人ハ何人ニ對シテ手形金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要スルカ 手形支拂人ハ手形ヲ呈出スル者即チ手形所持人カ其手形ノ形式上正當ノ所持人タルコトヲ認メタル場合ニ於テ滿期日後ニ支拂地ニ於テ手形ノ呈示ヲ受ケタルトキハ之ニ對シテ支拂ヲ爲スヘキモノニシテ之ニ因リテ手形債務ヲ免ルルモノトス而シテ真正ノ呈示人ナリト認ムルニハ左ノ條件ニ適合スルヲ以テ足ル
(イ) 呈示人ハ手形ノ形式上適法ノ手形所持人タルコト例ハ連續シタル裏書

共經濟ニ在リテハ常ニ收支相適合センコトヲ計リ收入ノ支出ニ超過スルコトヲ避ケルヲ以テ事實收支ノ適合ヲ期シ難キ丈ニ公債ヲ起スヘキ機會必要ハ私債ノ場合ト全ク正反對ニ出テ原則トシテ常ニ之ヲ豫期スヘキモノタリ勿論政府モ私人ノ如ク其財産ヲ賣却スルコト難キニアラサルモ官有財産拂下ノ臨時支出填補ノ手段トシテ不可ナルコトハ第一章ニ於テ述ヘタルカ如ク經濟上非議ヲ入ルヘキノミナラス政治上亦喜フヘキモノニアラス又事實迅速ヲ要スヘキ巨額ノ需要ニ應スル能ハサルヲ例ト爲シ現時ニ於テモ唯財政紊亂シ信用薄弱ナル國ニ於テ已ムナク此窮策ヲ執ルヲ見ルコトアルノミ其他特許其他ノ保護ヲ與ヘ其代償トシテ收入ヲ得ルコトアルモ其害毒ノ財產拂下ノ場合ニ比シテ却テ勝ル所アルハ復タ言フ俟サル所ナリトス而シテ非常準備法及ヒ租稅政策ニ依ルノ可否ニ付テハ亦第一章ニ於テ既ニ詳述シタル所ナルヲ以テ究極公債ハ其存在ヲ原則ト爲スヘキコト理論上ニ於テ其不可ナルヲ見サルノミナラス復タ事實ニ於テ各國財政史ノ等シク證スル所ナリ
第二 公債ノ償還ハ收入ノ増加ニ依ルヲ原則ト爲シ私債ノ償還ハ支出ノ減少

ニ依ルヲ以テ原則ト爲ス。私債ノ償還ニ在リテハ收入ノ増加ニ依リ或ハ財産ノ賣却等ニ依ルコト固ヨリ難シト爲ササルト共ニ其支出ノ減少ニ依ルコト原則トシテ認メラルル所ニシテ又比較的容易ナルモノト謂ハス。ハアラス之ニ反シテ公債ニ在リテハ官業收入ノ増加ハ固ヨリ強制的ノ性質ヲ有スルコトナク私人ノ營業ニ過キタルヲ以テ固ヨリ公債ノ償還ニ充ツルニ足ラス。財産ノ賣却ノ不能不可ナルハ亦上述スル所ノ如シ。而シテ經費ノ節減ハ又以テ公債償還ノ資ニ充ツルニ足ラス。通常ノ歳入ハ通常ノ費途ニ充テ通常ノ費途ハ公債費ニ於テモ官有財産ノ設備維持費ニ於テモ文武行政事務費ニ於テモ既ニ政府カ必要ナリト認定シタル經費ナルヲ以テ固ヨリ此ニ對シ非常ノ削減ヲ加ヘンコトハ不能ノ事。理ニ屬スルモノナリ。隨テ新公債ノ起ル毎ニ此カ填補ノ途ハ常ニ新稅ノ設定又ハ舊稅率ノ増加ニ依ルノ外ナキ。原則トス即チ公債ノ償還ハ常ニ強制的收入ノ増加ニ依ルモノニシテ私債ノ場合ノ如ク容易ナルモノニアラサルナリ。

第三 違約ニ對スル債權者ノ救済手段ハ私債ノ場合ハ十分ノ保障アルモ公債

ノ場合ニハ十分ノ保障ヲ受クルコトナシ

私債ノ場合ニ在リテハ其條件期限利率等ノ變更又ハ償還ノ有無ニ付キ債權者ノ合意ヲ經ス不法ニ違約スルトキハ法令ハ債權者ノ權利ヲ保障シテ司法ニ行政ニ債務者ノ破産ヲ限度トシテ此カ救済手段ノ完備ヲ期スルモノナリ之ニ反シテ公債ノ場合ニハ第一期第二期ノ時代ニ於テ固ヨリ實力關係ニ依リ不法ニ違約シテ之ヲ強行スルモ又之ニ對シテ救済ヲ求ムルニ由ナク近時立憲制度ノ下ニ於テモ議會ノ協賛ヲ經ルトキハ債權者ノ合意ヲ缺タスシテ此カ變更ヲ試ムルコトアリ此場合ニハ唯政治上道德上非難ノ餘地ヲ存スルニ止マリ法律上復タ此カ救済ノ手段ヲ缺クモノタリ外國債等ノ場合ニ於テモ外交問題ニ關聯シテ事實此カ變更ヲ抑制スルコトアルモ固ヨリ法律上ノ問題ニアラス近時列國皆自己ノ信用ノ鞏固ヲ圖リ濫ニ此等ノ窮策ヲ執ルコトナキモ時ニ其實例ヲ見出スコトナキニアラス其詳細ハ別ニ公債償還ノ章ニ於テ再述スル所アルヘシ

第四 公債ノ成立ハ募集ノ方法ニ依ルヲ原則トシ私債ノ成立ハ借入ノ方法ニ

依ルヲ原則トス

公債ハ私債ニ比シテ其額固ヨリ巨大ナルヲ以テ之ヲ特定セル私人ヨリ借入ルルコトハ經濟界ニ及ホス影響大ナルノミナラス幾多ノ弊害其借入ニ附帶シテ發生スルコトハ固ヨリ言フ埃タサル所ナリトス隨テ信用ノ發達セル現時ニ在リテハ政治上經濟上ノ理由ヨリ政府ハ單ニ一定ノ條件ヲ示レテ一般ヨリ募集スルノ制ヲ執ルコトヲ原則トシ社會問題ニ關聯シテ其募集方法ニ付キ成ルヘク應募者ノ種別範圍ヲ擴充セントスルノ趨勢アルコトハ前述ノ如シ或學者カ公債私債ノ區別ノ一トシテ債權者ノ數ノ多少ヲ擧ケ又ハ證書面ノ金額ト實際ノ借入高ノ相異ナルコトヲ舉クルモ亦之ニ伴フ結果ノ一端ヲ表彰セシモノニシテ却テ狭キニ失セルモノナリ募集ノ場合ニ於テハ其募集條件ノ輕重ト金融市場ノ繁閑ニ由リ需要供給ノ原則ニ支配セラレテ拂込高ノ額面高ヲ上下スルハ固ヨリ言フ埃タス而シテ此募集方法ハ近時私債中法人ニ屬スルモノニ在リテハ又屢行ハル所ニシテ通常社債ト稱セラルモノノ外普通ノ借入ニ於テモ額面高ト借入高ノ相異ナルコト稀ナリトセス利子制限法ノ拘束ヲ通レンカ

爲メニスル所謂高利貸ノ輩ノ如キハ姑ク之ヲ問ハストスルモ彼ノ英國ノ「ボン」ド「制」ノ如キハ額面高ト借入高ト相異ナルヘキコトヲ原則ト爲スモノナレハナリ

第五 公債ハ償還期間長ク利子低ク擔保ナキヲ原則ト爲スモ私債ハ償還期間短ク利子高ク擔保ヲ要スルヲ原則トス

國家ノ私人ニ比シテ信用ノ大ナルハ言フ埃タス永久ノ生存ヲ爲スヘキ國家ニ在リテハ其債務ノ永續ハ却テ債權者ノ希望スル所ニシテ近時信用ノ發達セル政府ニ在リテハ漸次無期ノ公債ヲ認ムルニ至レリ利子ニ於テモ信用ノ大ナル公債カ私債ニ比シテ低キコトハ又自明ノ理ニ屬セ時ニ無利子ノ場合亦少シト爲ナス強制公債ノ一種ト看ルヘキ不換紙幣ノ如キ是ナリ但シ不換紙幣ハ信用其モノノ厚薄ノミニ依リテ消長スルモノニアラサルハ論ナシ終ニ擔保ノ如キ私債ノ場合ニ在リテモ對人信用ノ外ニ居常ノ情實ヨリ無擔保ノ場合少シト爲ササレトモ通常特種ノ關係ナキ者ノ間ニ在リテハ擔保ヲ以テ成立ノ一要素ト看ルコト原則タリ

國債ト曰ヒ公債ト曰フ固ヨリ其間ニ畫一セル限界ノ存スルニハアラス唯此ニハ公債ヲ以テ政府其他公共團體ノ債務ヲ總稱スルモノトス即チ國債及ヒ地方債ヲ併稱シテ公債トス地方債ノ如何ナルモノナルヤニ付テハ公債償還ノ章ニ次キテ別ニ一言スル所アルヘシ

第三章 公債ノ分類

第一節 緒論

公債ノ意義ハ學說實際共ニ區區ニ岐レテ一定スル所アルナク最狹義ニ解釋スル者ハ所謂確定公債ノミヲ以テ公債ト稱シ狹義ニ解釋スル者ハ流動公債ヲモ併セ認ムルモ單ニ短期借入短期公債ノ類ニ限ラレ廣義ニ解釋スル者ハ廣ク財政上ノ公債ヲ總稱シテ公債ト曰ヒ最廣義ニ解釋スルモノハ財政上ノ公債ニ行政上ノ公債ヲ併セテ公債ト稱ス固ヨリ公債ノ字義ニ屬スル問題ニシテ理論上之カ是非ヲ論斷スヘキモノニアラサルコト言ヲ俟タズ唯一般ニ慣用セラルル公債ノ字義ハ事實トシテ狹義又ハ廣義ニ限ラレ最廣義ノ公債ノ特色シル行政

上ノ公債ト稱セラルルモノニ至リテハ嚴重ニ解釋スレハ公債論トシテモ又收支適合論トシテモ之ヲ論述スヘキ限ニ在ラサルモ國庫收入ノ一種トシテ之ヲ研究スルニ付キ本章ニ於テ述フルヲ最モ便ト爲スヲ以テ茲ニハ最廣義ノ公債ニ就キ之ヲ各種ノ方面ヨリ分類シ逐次之カ概念ヲ敘述スル所アルヘシ

第一 公債募集ノ原因ヲ標準ト爲ス分類

甲 非常公債

乙 平常公債

一 財政上ノ平常公債

二 經濟上ノ平常公債

三 行政上ノ平常公債

第二 債權者ノ國籍ヲ標準ト爲ス分類

甲 外國債

乙 內國債

第三 公債募集ノ方法ヲ標準ト爲ス分類

甲 強制公債

一 直接強制公債

い 借入直接強制公債

ろ 支拂直接強制公債

二 間接強制公債

乙 任意公債

一 愛國公債

二 契約公債

い 支拂約束

ろ 特別借入

三 通常公債

第四 公債ノ性質ヲ標準ト爲ス分類

甲 流動公債

一 行政上ノ流動公債

二、財政上ノ流動公債

い 短期借入

ろ 大藏省證券

は 紙幣

乙 確定公債

一 有期確定公債

い 割増公債

ろ 年金公債

a 終身年金公債

b 定期年金公債

は 定期公債

a 定期一時支拂公債

b 定期定額支拂公債

c 定期隨時支拂公債

二 無期確定公債

此他尙ホ經濟上ノ效果ヨリ觀察シテ生産的公債ト不生産的公債ニ分類シ擔保ヲ附スルト否トニ據リテ擔保附公債ト無擔保公債ニ分類シ利子ヲ附スルト否トニ據リテ利子附公債ト無利子公債ニ分類シ花札ヲ附スルト否トニ據リテ花札附公債ト無花札公債ニ分類シ課税ノ目的物ト爲スト否トニ據リテ負税公債ト無税公債ニ分類シ記名ノ有無ニ據リテ記名公債ト無記名公債ニ分類スル等幾多ノ區分ヲ爲シ得サルニアラサレトモ此等ノ分類ハ公債ノ區分トシテハ比較上之ヲ論究スヘキ價值少ク且ツ別ニ他ノ章目ノ下ニ於テ便宜叙述スヘキ機アルヲ以テ茲ニハ前掲四種ノ分類ヲ説明シ此カ利害得失ニ付キ論究スル所アルヘシ

第二節 非常公債及ヒ平常公債

第一款 非常公債

非常公債ハ戰亂其他天災地變等意外ノ事變ニ因ル非常ノ費途ヲ蔽フカ爲メ

起債セラルルモノニシテ我邦ニ在リテハ明治十年ノ役ニ第十五國立銀行ヨリ借入タル征討費一千五百萬圓明治二十七八年ノ役ニ於ケル軍事公債明治二十七年八月勅令百四十四號五千萬圓ノ如キ是ナリ蓋シ非常公債ハ平常公債ニ比シテ其額巨大ニ上ルヲ常ト爲シ且ツ急速ノ供給ヲ要スルモノナリ而シテ一面ニハ其需要ハ多クハ國家ノ生存問題ニ關聯シ必要ノ度大ナルヲ例ト爲スヲ以テ公債ノ必要ニシテ又何レノ國ニ通スルモ公債ナキヲ見サルハ畢竟非常ノ事變ノ發生ニ因ルコト此カ避クヘカラサル原由タルコト明カナリトズ

第二款 平常公債

平常公債トハ非常公債ニ屬セサル公債ニシテ再分シテ財政上ノ公債、經濟上ノ公債及ヒ行政上ノ公債ノ三種ト爲ス
財政上ノ平常公債ニハ財政ノ不足ヲ補フカ爲メニ起債セラルルモノアリ我邦ニ在リテハ海軍軍備ノ費途ニ充ツル爲メ募集セラレシ海軍公債明治十九年六月勅令第四十七號一千七百萬圓ノ如シ又財政整理ノ爲メ募集セラルルモノア

リ弘化元年以後明治四年ニ至ル舊諸藩諸縣ノ公債ノ引受トシテ發行セシ新舊公債明治八年五月布告第九十五號從來永世一代又ハ年限等ヲ以テ給與セシ家祿賞典祿ヲ改メテ祿ノ種類並ニ金祿元高ニ依リ年分ヲ定メ一時ニ下渡ス爲メ起債セシ金祿公債明治九年八月布告第八號政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シタル金札引換公債明治十三年十二月布告第四十七號從前發行ノ六分以上利附ノ内國債ヲ償還整理スル爲メ起債セシ整理公債明治十九年十月勅令第六十六號一億七千五百萬圓其他沖繩縣諸債社寺遞減祿舊神官配當祿等ノ如キ是ナリ此種ニ屬スル公債ハ公債ノ管理ト密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ別ニ詳述スル所アルヘシ

經濟上ノ平常公債トハ經濟事業ヲ起ス爲メ募集セラルルモノナリ我邦ニ在リテハ全國中公益ノ事業ヲ起シ物產繁殖ノ道ヲ開キ内外ノ商賣ヲ盛ニスル爲メ募集サレシ起業公債明治十一年五月大藏省布達甲第十三號上野國高崎ヨリ美濃國大垣マテ中仙道ニ沿ヒ延テ伊勢國四日市ニ至ルマテ鐵道ヲ布設シ及ヒ其事業ヲ經營スル爲メ起債セラレシ中仙道鐵道公債明治十六年十二月布告第四

十七號相模國戸塚橫須賀間近江國大津長濱間鐵道布設資金ヲ補充スル爲メ募集セラレシ鐵道補充公債明治二十二年一月勅令第六號二百萬圓ノ如キ既設官設鐵道改良北海道鐵道建設製鋼事業電話擴張ノ費途葉煙草專賣資金及ヒ國防事業ノ費用ニ充ツル爲メ募集セラルル事業公債明治二十九年三月法律第五十九號一億三千五百萬圓ノ如キ臺灣ニ於ケル鐵道敷設土地調查築港廳舍建築ノ經費ニ充ツル爲メ募集セラルル臺灣事業公債明治三十二年三月法律第七十五號三千五百萬圓ノ如キ此類ナリ行政上ノ平常公債ハ本章第四節行政上ノ流動公債ノ下ニ於テ叙述スヘキヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

第三款 生産的公債及ヒ不生産的公債

序次ノ便ニ由リ生産的公債ト不生産的公債ノ分類ニ付キ一言スル所アルヘシ公債ノ生産的ト曰ヒ不生産的ト曰フハ其起債ニ因リテ得タル臨時收入ノ支途ノ生産的ナルヤ不生産的ナルヤヲ指スニアラスシテ公債其モノニ存ス故ニ一

方ニハ總令其收入ノ使途カ不生産的ニ使用セラルルモ公債ノ總額財政ノ上ヨリ觀察シテ未タ多キニ失セス其利子期限等ノ體様宜シキヲ得其市場ノ價格モ額面高ヲ超ユル場合ニハ以テ生産的公債ト稱スルヲ妨ケサルト共ニ一方ニハ總令其收入ノ使途カ生産的ニ使用サルトモ公債ノ總額財政ノ上ヨリ觀察シテ多キニ失シ其利子期限等カ體様宜シキヲ得其市場價格モ額面高ヲ下ルカ如キ場合ニハ復タ不生産的公債ト稱スルコトヲ妨ケサルナリ但此間ノ區別ヲ知ルコトノ必要ナルト同時ニ又其使途ノ生産的ナルト不生産的ナルトハ結局公債其モノカ生産的不生産的ト爲ルヘキコトヲ忘ルヘカラス何トナレハ生産的ニ使用セラルル場合ニハ其債務ハ容易ニ償還セラレ多クノ場合ニハ政府ノ收入ニ幾多ノ餘剩ヲ殘シ少クトモ一國ノ富ヲ増進シテ結局人民ノ負稅力應募力ヲ増進シ公債ノ募集又ハ整理ノ條件ヲ容易ニ爲スモノナレハナリ隨テ經濟上ニ屬スル平常公債ハ所謂生産的公債タルヲ例ト爲スモノナリ

第三節 內國債及外國債

第一款 緒論

債權者ノ國籍ヲ以テ標準ト爲シ其全部若クハ大部分カ外國人ノ手中ニ在ル場合ハ外國債ト稱シ內國人ノ手中ニ在ル場合ハ內國債ト稱ス其募集地ノ内外何レニ存スルヤハ問フ所ニアラサルモ外國債ハ外國ニ於テ起債セラルルヲ原則トシ內國債ハ內國ニ於テ起債セラルルヲ常ト爲スモノナリ此二者ノ別ハ公債證書其モノノ移轉ニ因リ互ニ其性質ヲ變スヘキハ言ヲ俟タス近ク明治二十七八年役ニ於ケル我軍事公債ノ如キ「サミュエル」商會ヲ經テ其大部ハ外國人ノ手裡ニ移轉セルハ世人ノ知ル所ナリ

內國債外國債ノ區別ハ單ニ債權者ノ内外國人ナルヤニ存シテ必要ナル分類ト看ルコト能ハサルモ外國債其モノノ利害關係ハ外資輸入ノ問題及ヒ政治問題ト相牽聯シテ從來學者ノ多ク研究セラルル所タリ昨年我政府ハ又一千萬磅ノ外國債募集ノ舉アリ各國皆其實例多キノミナラス其政策ノ是非ハ社會ノ全般ニ影響ヲ來シ時ニ一國ノ生存問題ニ波及スルコトナキニアラサルヲ以テ少シ

ク茲ニ講述スル所アルヘシ
外國債ニ付テハ現時之ヲ絕對ニ非議スル者アルヲ聞カス今便宜ノ爲メ消極論者ノ重ナル論點ヲ列舉スレハ大畧次ノ如シ

外國債ノ弊害

第一 財政上ノ弊害

- 一 借入容易ニシテ低利ノ場合多キヨリ濫ニ起債スルノ患アルコト
- 二 前號ノ結果トシテ浪費ヲ生シ易ク爲メニ經費ヲ増加スルコト
- 三 前號ノ結果トシテ國庫ノ破産ヲ通レンニハ増税ノ手段ヲ取ラサルヲ得サルノ患アルコト

第二 經濟上ノ弊害

- 一 外資ノ輸入ハ一時ニ通貨ヲ膨脹スルモノナルヲ以テ金融市場ヲ擾亂スヘキコト
- 二 前號ノ結果トシテ物價ニ急激ナル變動ヲ來スコト
- 三 物價騰貴ノ爲メ輸入超過ト爲ルト同時ニ第一號ニ因リテ輸入スル正貨

ノ流出ヲ高ムヘキコト
第三 政治上ノ弊害

- 一 外國債ノ不整理ハ直接間接ニ債權國ノ干涉ヲ蒙リ甚シキハ一國ノ生存ヲ危クスルニ至ルコト
即チ前掲スル所ヲ略言スレハ外國債ハ濫ニ起債セラルル憂多ク之ヲ起セハ金融市場ヲ擾亂シ時ニハ外國ノ干涉ヲ受クルニ至ルヘシト云フニ在リ今序ヲ遂フテ此利害ヲ辯明スヘシ

第二款 財政上外國債ノ利害ヲ論ス

財政上ノ消極論ハ公債中ニ在リテモ外國債ハ殊ニ無用ノ費途ヲ誘導シ易シト云フニ外ナラス換言スレハ其起債ノ容易ニシテ低利ナルコト多シト爲スヲ以テ濫ニ起債セラレ結局浪費ヲ助成シ之ヲ填補スヘキ惡税ノ増加ト爲ルヘシト云フニ在リ所謂浪費大ニシテ惡税ヲ増加スヘシト云フハ先ツ無用ノ經費ノ爲メニ起債セルコトヲ前提トシテ論スルモノニシテ是レ獨リ外國債ニ限ラルヘ

キモノニアラス又其起債ノ容易ナル爲メ結局外國債ハ内國債ヨリ財政上ノ害ヲ來スヘキ機會ヲ多シト云ハシモ外國債ハ必スシモ内國債ヨリ容易ニ起債セラレ得ヘキモノニアラス通常何レノ國ニ在リテモ先ツ内國債ニ依ルヲ原則トシ既往内國債ノ總額又ハ最近起債ノ時期募集額等ノ關係ト金融界ノ狀態トヲ照應シ内國債ニ依ルコト困難ナルカ又ハ不可ナリト認ムルトキ始メテ外國債ニ依ルニ至ルハ各國ノ公債歴史ニ徵スルモ明カナル事實ニシテ寧ロ財政困難ノ際外國債募集ノ要アルカ爲メ之ニ附帶シテ弊害ヲ來スコト少シト爲サズ昨年我國ノ外債募集ニ對シテモ亦之カ消息ヲ付度スルニ難シト爲ササルナリ大數觀測ヲ以テ言ヘハ内國債却テ外國債ヨリ起債容易ナルヘキヤ未タ知ルヘカラス殊ニ東洋諸國其他半開ノ國ニ在リテハ巨額ノ資本ヲ以テ充實セル歐米ノ市場モ猶ホ此カ投下ヲ爲スニ躊躇シ信用ノ薄弱ナル決シテ外國債ヲ以テ容易ニ成立シ得ヘキモノト認ムヘカラサルモノアリ是レ消極論者カ根本ニ於テ全然同意ヲ表スヘカラサル所以ニシテ其財政上生スヘキ弊害ハ内外國債ノ區別如何ニアラスシテ一ニ當事者ノ手腕如何ト既往財政上ノ狀態トニ存スヘキコト

ト言フ埃タサルナリ

昨年五月末日大藏省令第二十二號ニ依ル外債ノ如キハ其成立ニ至ルマテ實際ニ於ケル成行ノ難易ハ姑ク之ヲ問ハス四分利ニシテ發行價格百磅ニ付キ拂込額九十磅之ニ百分ノ四ノ手数料ヲ控除シテ結局八十六磅ノ實收ト爲レルカ如キ少クトモ外國債ヲ以テ内國債ヨリ容易ニ且ツ利益多キ條件ヲ以テ成立スルコトヲ得ヘキモノニアラサルコトヲ知ルニ至ルヘシ

第三款 經濟上外國債ノ利害ヲ論ス

外國債ノ募集ハ一時ニ通貨ヲ募集スルト相同シキヲ以テ金融市場ニ急激ナル動搖ヲ來シ物價ノ騰貴ハ正貨ノ流出ト相待チテ輸入超過ト爲リ漸次又通貨ノ缺乏ト爲リ社會事業ノ發達ヲ挫折シ經濟界ヲ紊亂スヘシトハ消極論者カ經濟上ノ弊害トシテ舉グル所ナリ此論點モ亦等シク絶對的ニ是非スヘキモノニアラスシテ内國債ニ於テモ經濟上ノ弊害ヲ來スヘキ場合アルト共ニ外國債モ亦此等ノ弊害ヲ除去シテ却テ巨多ノ利便ヲ來スコトアリ其是非ハ一ニ内國金融界ノ狀態如何ニ存スルモノナリ若シ内國ノ金融界逼迫ヲ告グルコトナク所謂

游金ノ存スル場合ニハ内國債ノ募集ハ容易ナルノミナラス民間資本家モ亦希望スル所ナリ此際猶モ安キヲ避ケテ特ニ外國債ヲ起シシカ金融界既ニ通貨ノ潤澤ヲ告タルニ加フルニ外資ノ輸入ヲ以テス前掲述フルカ如キ弊害ノ生スヘキコト又火ヲ賭ルヨリモ明カナリト謂フヘシ然レトモ容易ニ起債シ得ヘキ内國債ヲ避ケテ外國債ニ依ルコトハ事實トシテ想像シ得ヘカラサルコトニシテ一般ニ外國債ヲ起スハ内國債ニ依ルコト不利ナルカ又困難ナル場合ニ在リ今内國債ヲ募集スルニ際シテ其公債カ流動公債即チ短期ノ公債カ又ハ縱令確定公債ナリトモ應募者カ其資金ヲ外國ノ生産事業ニ投下セルモノヨリ之ノ回收スル場合ニハ内國經濟界ニ及ホスヘキ影響ハ稀少ナルヘキモ一般ノ場合ニ於テ内國金融界逼迫ヲ告ケ資本ハ總テ生産事業ニ投下セラレ游金ノ存セサル場合ニハ荷モ内國債ヲ起シテ成功ヲ期センハ必スヤ金利ヲ高シシ拂込額ヲ低クスル等勢ヒ財政上不利益ナル條件ヲ以テセシムルハアラズ換言スレハ既ニ生産事業ニ投下セル資本家ヲシテ其資本ヲ引戻サシムル丈ノ條件ヲ與フルニアリスンハ成功ヲ期シ難キコト言フ埃タス此ノ如キ場合ニ於テハ資本家其モノ

ノ利害關係ハ姑ク之ヲ措キ社會全般ハ一時資本ニ急激ナル變化ヲ受クル爲メ物價其他ニ影響ヲ受ケ經濟界ニ一種ノ亂調ヲ呈スヘキト共ニ中産者以下ハ一方ニ於テハ其公債ノ元利支拂ノ爲メ結局租税ノ負擔ヲ増加スルト共ニ從來投資セラレシ事業中絶ノ爲メ其職ヲ失ヒ勞働ノ供給過多ノ結果トシテ營業所得勞銀ノ暴落ト爲リ社會問題ニ牽聯セテ勢カラサル害毒ヲ與フヘキコト又消極論者カ唱道スル場合ノ比ニアラサルナリ此ノ如ク一方ニハ内國債ノ起債カ民間生産事業ノ進捗ヲ障害スヘク一方ニハ政府カ起債スル目的ハ交通事業ノ如キ確實ニシテ有利ナル事業ヲ開クニ在ルトキハ外國債ヲ募集スヘキコトハ當然ノ事理ニ屬シ却テ好箇ノ良策ト謂ハスンハアラズ利子ノ流出ハ固ヨリ巨額ハ外資流用ノ報酬ナリ一方ニ民間ノ生産事業ヲ障害セス一方ニ有利ノ官業ヲ興スニ於テハ毫モ弊害ノ發生スヘキ理由ヲ見サルモノトス經濟上ニ於ケル外國債ノ利害又絕對ニ之ヲ論斷スヘカラサルト共ニ事實外國債ニ依ル場合ハ内國債ニ依ルカハサルカ又之ニ依ルトキハ一層ノ害毒ヲ生スヘキ場合ナルヘキコト知ルヘキナリ其起債ノ目的ノ良否ニ至リテハ又内外國債ノ間ニ何ノ差異

カアラシヤ

第四款 政治上外國債ノ利害ヲ論ス

外國債ノ通弊トスル所ハ財政ノ不整理ニ伴ヒテ外國干涉ノ端ヲ啓クニ在リトハ一般ニ唱道セラルル所ニシテ時ニハ又債權國ハ債務國ノ信用ヲ墜落セシメシカ爲メ故意ニ債務國ノ公債ヲ賣出スカ如キコトアリ外國干涉ノ實例トシテ引證セラルルハ多ク埃及突尼斯等ニシテ國際法上外債償還ノ不履行ハ干涉ノ原因ト認ムヘキヤ否ヤ姑ク之ヲ措キ「ワツタル」氏ノ如キハ臣民ノ財産ハ即チ國家ノ有スル富ノ總額ニシテ國民ノ財力ハ直チニ國力ヲ消長スルモノトシ正當ナル干涉ノ原由ト看ルモノノ如シ事實ハ外國干涉ノ結果トシテ其獨立權ヲ失フニ至レリ

埃及政府カ土耳其ヨリ内政上ノ獨立ヲ得シハ一千八百四十一年、六十六年及七十七年ノ條約ニ依リシモノニシテ一千八百八十二年七月ニハ其公債總額一億九百一萬六千六百五十磅人口一人ノ負擔額十九磅十九志其利子ノ負

擔額十八志四片ニ當リ公債費ハ歲入ノ五分ノ三ヲ占ムルニ至レリ一千八百七十六年英人クローブ氏派遣委員トシテ入りテ埃及財政ノ整理ニ著手シ後ゴツシエン「ジュール」氏等又之ニ次キテ此處分ヲ馳行シ一千八百七十九年檢査總官ノ制ノ下ニ埃及ノ財政ハ舉ゲテ英佛二國ノ手裡ニ歸シ其債務ヲ果スニ不能ナルコトヲ公言セラレテヨリ英佛獨、埃伊甸等ノ聯合償還委員會ノ編成ト爲リ財政干涉ニ對スル國內ノ反抗ハ武力干涉ト爲リ今ヤ英兵ノ埃及ニ駐屯シテ文武其實力ヲ控制スルハ世人ノ知ル所ナリ

然レトモ此等ハ毫モ外國債其モノノ弊害ニアラスシテ公債ノ管理其宜ヲ得サルニ基因ス信用ヲ輕視シテ契約ノ條件ヲ違背スルハ政府自體ノ失錯ニ出ツルモノニシテ彼「クローブ」氏ノ報告ニモ埃及ハ一方ニ於テ東方ノ無智不正浪費ノ弊風行ハレ一方ニハ一時ニ歐米ノ文化ヲ輸入セントシ事業ノ發達經理ノ方法ヲ謬リ無謀ノ企業ヲ爲シタルニ因レリト財政紊亂ニ伴フ弊害ハ固ヨリ外國債ニ限ルヘキニアラス其利害ハ一ニ財政ノ管理如何ニ在リテ存ス埃及突尼斯等ヲ以テ一般ニ律セントスルハ根本ニ於テ誤レリト謂フヘシ

之ヲ要スルニ公債ハ銳利ナル武器ナリ其任用ノ方法如何ハ能ク國ヲ活シ又能國ヲ亡スハ前ニ述ベタル所ナリ殊ニ外國債ニ於テ其著シキヲ見ルコト予輩亦信シテ疑ハス外國債ハ其起債管理償還ニ於テ殊ニ慎重ナル注意ヲ要スヘキコトハ言フ埃タサルト共ニ外國債其モノハ決シテ忌ムヘキモノニアラサルノミナラス却テ特種ノ效果ヲ有スヘキコトハ上述スル所ノ如シ而シテ實際ニ於テハ内外國債ノ利害ヲ對照シテ選擇スヘキ餘裕アル場合ハ稀ニシテ多クハ需要ニ應スルニ急ナルノ餘復タ之ヲ選擇ヲ爲スコトヲ得サルヲ例ト爲スモノナリ近時輸入超過シ正貨流出ニ經濟界ノ變調ヲ來サシトスルニ際スル調和策トシテ外債ニ依ルコトアリ露國ノ如キ是ナリ又一方ニハ信用機關ノ發達ニ伴ヒ巨額ノ資金一時ニ流入スルコトヲ避ケ一方ニハ手數經費ヲ節減スルノ策トシテ先ツ官業ノ材料等ヲ債主國又ハ其附近ニテ購買スルコトアリ況ヤ外債ニ依リテ各國ヲ通シテ財政上互ニ相牽聯スルコトハ國際上喜フヘキ現象ニシテ其利害關係ハ平和ノ鍵トシテ直接間接ニ戰亂ノ害毒ヲ防遏スルノ效果ナリト爲ナサルナリ

第四節 強制公債ト任意公債

第一款 強制公債

強制公債トハ政府ヲ相手方ノ合意ヲ經テ強制シテ起債スル公債ナリ其強制方法ノ直接ナルト間接ナルトニ依リ又再分シテ直接強制公債及ヒ間接強制公債ノ二種ト爲ス

第一項 直接強制公債

直接強制公債ハ往時履行ハレシモノニシテ一種ノ非常稅ト視ルコトヲ得ヘシ其租稅ト異ナルハ其強制シテ借入レタル元金ニ付キ支拂ノ義務アルト其元金ニ對シ通常低利ヲ附スルコトアルニ在リ隨テ又其證書ヲ賣却スルコトヲ得ヘシ所謂強募法ト稱セラルルモノ是ナリ
直接強制公債ハ又其強制ノ方法ニ依リテ之ヲ借入強制公債ト支拂強制公債ト二種ニ再分スルコトヲ得ヘシ即チ

借入強制公債又ハ割付國債トハ國民ノ財産ニ對シ或標準ヲ以テ拂込額ヲ割付ク此カ借入ヲ強制スルモノナリ
支拂強制公債トハ政府カ國民ニ對スル債務ノ支拂ニ際シ合意ナクシテ現金ノ代リニ公債證書ヲ以テ支拂ヲ強制スルモノナリ

第一目 借入強制公債

借入強制公債ハ種種ノ標準ニ據リテ此カ割付ヲ強制スルコトアリ府縣郡市町村等自治團體ノ階級ヲ通シテ順次此カ借入高ヲ配付スルアリ或ハ政府カ各人ノ拂フ所ノ直税ノ歩合ニ比例シテ割付クルアリ或ハ富裕ナル地方ヲ指定シテ所定ノ出金ヲ命ジ此カ租税ヲ免除スルコトアリ此等何レノ方法ニ依ルモ政治上人人心ヲ離畔シ政府ノ信用ヲ減却スヘキハ固ヨリ其不公平不便ナルコトハ復タ説明ヲ俟タズ即チ國民財産ノ實額ヲ知悉シ難キト又其財力ヲ詳悉スルモ租税論ニ於テ既ニ知レル如ク財力ト被稅力ハ互ニ正比例ヲ爲ササルモノナルヲ以テ結局公平ヲ失スヘキノミナラス租税ト異ナリ不時ニ割付公債ヲ強制スル

トキハ國民ニ與フル害毒著大ナルヘシ往器諸國ニ於テ方法ハニ依リ非常ノ費用ヲ辨セントシ悉ク失敗ニ了リシハ又怪シムニ足ラサルナリ
佛蘭西ニ於テハ一千七百九十三年及ヒ一千八百十五年埃太利ニ於テハ一千七百五十年一千七百六十年一千七百九十四年一千八百六十年一千八百五十年一千八百五十九年西班牙ニ於テハ一千八百三十八年ニ於テ行ヘル強募法ハ其ニ有名ナルモノニシテ其他バーデン等ニ於テモ行ハレタルモ何レモ失敗ニ了リ一千七百九十三年佛蘭西ニ於テ募集ノ場合ハ四億圓ニ對シ四千萬圓ヲ得ルニ過キサリキ唯稍成效ニ近カリシハ一千八百十五年ノ場合ニシテ其額ノ四千萬圓ノ少額ニ止マリシト當時那破翁連年戰亂ノ餘國民平和ヲ望ムコト切ニ政府ノ信用亦厚カリシヲ以テ年内ニ豫定ノ額ヲ得タルコトアリ

第二目 支拂強制公債

支拂強制公債モ其政治上經濟上財政上何レノ點ヨリ觀ルモ害毒ノ大ナルコト復タ言ヲ俟タズ殊ニ證書ニ其當時ノ市價ヲ以テ支拂フコトナク額面價格即チ

平價ヲ以テ支拂フニ於テ殊ニ然リト爲ス(佛國ニテ那破翁一世平價ヲ以テ支拂ヲ強制シ殆ト二割餘ノ損失ヲ債權者ニ負ハシメタリ)蓋シ債權者ハ物品供給ノ結果ナルト公債ノ所有者ナルトハ多ク其支拂ニ因リ現金ノ收得ヲ豫期セルモノニ際シ猶ホ證書ヲ以テ交付スルトキハ必スヤ之ヲ賣却シテ現金ヲ收得セスンハアラス而シテ其收得金ハ證面額ニ比シテ固ヨリ少カルヘタ尙ホ多少ノ手數ト時間ヲ要スルヲ以テ物品供給者ノ如キ此等事實ノ發生ヲ豫期スルトキハ其損失ヲ填補スルニ足ルヘキ價格タケ高ク賣込ムヘキハ當然ノ事理ニシテ政府カ強制支拂ノ弊風ヲ學ヒテ偶寸毫モ利スル所ナキニ至ルヘキナリ而シテ其證書交付ノ爲メ受タル所ノ損害ハ物品供給者其他大藏省證券ノ如キ短期公債ノ所有者ニ於テ大ナルヘキハ亦明カナリ信用ハ經濟社會ノ根底ヲ形成スルモノナリ若シ政府財政ノ不振ニ因リ現金支拂ヲ以テ難シト爲セハ債主ト協議シテ此カ支拂ノ延期ヲ爲シ又ハ他ノ證書ト借換ヲ爲スハ猶ホ可ナリ寧ロ公然普通ノ方法ニ依リ大藏省證券又ハ長期ノ公債ヲ起シ以テ信用ノ維持ヲ計リスンハアラサルナリ

第二項 間接強制公債

茲ニ間接強制公債トハ不換紙幣ヲ指スモノニシテ合法貨幣トシテ強制通用ヲ爲スモノナリ即チ賣買貸借等ニ於テ額面價格ヲ有シ何人ト雖モ之カ授受ヲ拒ムコト克ハサルモノナリ不換紙幣ハ利子ノ支拂ナク募集ノ費用ヲ要セス其原料品ノ價格發行ノ費用ノ如キ僅少ノ額ニ止マリ其モノ自體ノ利用價值ハ殆ト皆無ト謂フヘク殊ニ元金ノ領却スラ法律上制限ヲ受ケサルモノナルヲ以テ一種ノ直接支拂強制公債ニシテ債主不定ニ且ツ元利支拂ノ義務ナキモノナリ論者或ハ不換紙幣ノ發行ヲ以テ貨幣ノ吹換又ハ賈鑄ト同一ナリト極論スル者アレトモ不換紙幣ノ發行ハ貨幣ノ吹換ノ場合ノ如ク常ニ不正ノ手段ヲ包合セサルノミナラス其管理宜ヲ得ハ毫モ額面價格ヲ下ルコトナク財政危急ノ際ニハ唯一ノ良策トシテ偉效ヲ奏スルコトアリ

不換紙幣ハ銀行ノ手形發行ニ濫觴シテ法律上政府又ハ銀行カ發行セシ紙幣ニ強制通用ノ性質ヲ與ヘ正貨ト兌換スルノ義務ナキモノナリ其發行ノ容易ナル

ヨリシテ現時各國ヲ通シテ盛ニ此制行ハレ其濫用ノ結果到ル處害毒ヲ流布シ「ウェブスター」民ノ如キ紙幣ノ爲メニ吾人カ被リタル災害ハ實ニ甚シク人民ヲ殺戮シ國家ノ利益ヲ破壞シ正義ヲ亂リ其害毒殆ニ戰爭ニ勝レリト言フニ至レリ蓋シ不換紙幣ノ問題ハ貨幣論ニ於テ攻究スヘキモノニシテ茲ニハ之ヲ詳論スルノ機ナキカ故ニ唯財政上ノ點ヨリ此利害ニ付キ其梗概ヲ述フルニ止メントス

不換紙幣ハ積極ニ不換紙幣其モノヲ發行セラルル場合ト在來ノ兌換券ノ兌換ノ停止ヲ爲スト二箇ノ場合アリ前者ハ非常ナル財政困難ニ遭遇セルトキ又戰時等ノ事變ニ際シ豫メ巨額ノ經費ニ應スヘキ爲メ發行セラルルヲ常ト爲シ其例枚舉ニ違アラス後者ハ多ク一大銀行カ恐慌ニ遭遇シ又ハ營業上ノ失敗アリシトキ銀行カ信用ヲ恢復シテ融通ヲ爲シ得又ハ恐慌ノ經過スルマテ倒産ノ患ヲ避ケンカ爲メ行ハルモノニシテ千六百九十五年ニ於ケル英國銀行千八百四十八年ノ佛蘭西銀行ノ如キ皆此趣旨ニ因リ支拂停止ヲ爲シタリ

不換紙幣ノ發行方法ニハ政府自體カ直チニ其要スル所ノ額ヲ發行スル場合ト

金融機關ヲ指定シテ其機關ヨリ政府所要ノ額丈ノ銀行紙幣ヲ納付セシムル場合トノ別アリ即チ後者ノ場合ハ銀行委託發行法ト稱セラレ主トシテ英佛ニ行ハルル方法ニシテ金融機關即チ銀行若クハ銀行組合ヲシテ其營業需要外ニ紙幣ヲ發行スルコトヲ許シ其責任ハ政府自ラ之ヲ負フモノニシテ銀行ハ唯假面ノ債主ニ過キス銀行ノ納付スル紙幣ニ付テハ銀行ハ毫モ資本ヲ要スルコトナク又之ニ對シテ正貨ト交換スルコトヲ要セス即チ無名ニシテ不定ナル具ノ債主即チ國民ト政府ノ間ニ媒介保證ノ勢ヲ取ルモノニシテ其納付額ニ對シテ政府ヨリ受クル金ヲ利子ト云フモ其實ハ製造費其他ノ手數ヲ包含セル一種ノ報酬ニシテ債主ノ國民ニ對シテ政府カ債務ヲ負フニ於テハ政府自ラ發行スル場合ト異ナルコトナシ

不換紙幣ノ長處ハ政府租稅又ハ通常公債ノ方法ニ依ルコト能ハサルカ又能フヘキモ時日金額其他條件ニ於テ非常ナル困難ヲ來スニ際シ課稅又ハ起債ノ手數ト經費ヲ要セス隨時所要ノ額ヲ發行スルコトヲ得ル唯一ノ手段トシテ認メラルニ在リ不換紙幣カ此特種ノ效果ヲ奏セシハ普佛戰爭後ニ於ケル財政整理

ノ歴史ヲ以テ好實例ト爲スヘシ昔佛戰爭ノ大敗ニ因リ人命財產ヲ消耗セシコト固ヨリ算ナク戰後尙ホ巨額ノ償金ヲ支拂ヒ而モ十年ヲ出テスシテ財政ノ整理其全キヲ告ケ能ク今日ノ佛蘭西アルヲ致セシハ實ニ不換紙幣ノ效ニシテ不換紙幣ニ依ルニアラスンハ又他ニ救正ノ手段ヲ見出タスコト克ハサリシモノナリトス

昔佛戰爭ノ際「ラール・ボルドニー」ニ設置セラレシ假政府ハ財源乏シク信用薄弱ニシテ抵當モ亦確實ナラス故ニ殆ト八分ノ利子ヲ以テ八千萬ノ公債ヲ募集ルニ苦メリ此際政府ハ佛蘭西銀行ヨリ五億八千八百萬圓ヲ借受ケ戰爭中ハ六分ノ利子トシ戰爭後直チニ三分ニ下ケ遠ニ一分ニ下ケタリ而シテ政府ハ千八百七十一年反ヒ千八百七十二年ニ公債ヲ募集シ其翌年又三億圓ノ公債ヲ募リ此年ヲ以テ全然不換紙幣ヲ銷却シ得ルニ至レリ然レトモ公債ハ其利子六分ナレトモ不換紙幣ノ借入利子ハ九厘一分中印紙稅一厘差引萬ニ過キナルヲ以テ不換紙幣ヲ存スレハ公債總額四億四千萬圓乃至八千萬圓ニ付キ年年二千萬圓ノ利子ヲ利スヘキヲ以テ之ヲ保存シタリ而シテ千八百七十三

年以後ハ正貨ト紙幣ト價格相平均セラレ民心安シ國民毫モ其害ヲ受クルコトナク千八百七十九年三月ヲ以テ不換紙幣ヲ銷却テ告タルニ至レリ蓋シ不換紙幣ニシテ此ノ如キ著效ヲ奏セシハ政府ヲ始メ銀行及ヒ國民ハ一時ノ便宜手段トシテ直チニ兌換恢復ノ期ニ達スヘシト信シ當時ノ流通高ハ十二億圓ニ上リシモ一方ニ四億圓ノ正貨ハ一時ニ償金トシテ佛國ヲ去リシヲ以テ不換紙幣其後ヲ填メ正貨過多ノ獨逸ヨリ正貨ノ漸次復歸スルニ至リテハ紙幣又漸次銷却セラレテ金紙ノ價額其平均ヲ失ハス而シテ一方ニハ四億萬圓ノ多クハ爲替手形ヲ以テ支拂ハレ其手形ハ輸出超過佛國來遊外人ノ所持セル正金手形佛人所有ノ外國債利札等ヲ以テ成リ外國爲替ハ常ニ順境ナリシヲ以テ佛國ニ支拂額ノ超過ハ外國市場ニ於テ不換紙幣ハ金貨ニ對シテ却テ打歩ヲ生スルニ至レリ此ノ如ク千八百七十年ノ佛國不換紙幣ハ非常ノ場合ニ於ケル唯一ノ救濟手段トシテ財政上稀有ノ偉效ヲ奏セタリ

或論者ハ千八百七十年ノ佛國ノ財政ニ付キ反論シテ曰ク當時佛國ニ於テハ經濟上積極ニ擾亂ヲ來シタルコトナシト雖モ其不換紙幣ノ價格ヲ維持セタ

ル所以ノモノハ一時數週間打歩千分ノ二十七ニ下落シタルコトアリ畢竟人爲ヲ以テ通貨ノ額ヲ制限シタルニ因ルモノニシテ獨逸ニ支拂ヒタル償金ノ爲メニ大ニ通貨ノ額ヲ減少シ其拂底ヲ告タルノ際ナリシヲ以テ紙幣ト正貨トノ間ニ格段ノ差異ヲ見ナリト雖モ既ニ人爲ニ因リテ通貨ヲ制限シ經濟上自然ノ運轉ヲ妨害シタルカ爲メ其發達進步ヲ害セタルコト夥シク從來歐洲金融界ノ新ヲ唱ヘシ佛國ハ其權力ヲ英國ニ奪ハルルニ至レリト此反論ニ對シテハ又多言ヲ用フルコトヲ要セス唯不換紙幣發行ノ爲メニ普佛戰爭ヲ開キテ大敗ヲ招キシニアラス戰爭大敗後ノ復舊策トシテ不換紙幣發行ノ手段ニ訴ヘシモノナルコトヲ知レハ足レリ戰亂ノ罪ヲ以テ其戰敗ニ對シ偉效ヲ奏シタル不換紙幣ニ嫁セントス論理ノ矛盾亦甚シト謂フヘキナリ

上述スルカ如ク不換紙幣ハ固ヨリ絕對ニ非難スヘキモノニアラサルノミナラス財政上異常ノ場合ニ於テ特種ノ效果ヲ奏スルモノナルニ拘ラス多數ノ學者カ猶ホ不換紙幣ニ付キ其弊害ヲ舉ケテ之ヲ非難スル所以ノモノハ要スルニ不換紙幣ハ濫發セラルルヲ常ト爲スニ在リ即チ各國財政ノ沿革ニ徴スルモ不換

紙幣ノ發行ハ失敗ニ了ルヲ以テ例ト爲シ不換紙幣其モノヲ以テ直チニ此カ濫發ノ害毒ヲ聯想セシムルニ在リ蓋シ不換紙幣發行ノ度數及ヒ發行額ノ多キニ過タルコト即チ不換紙幣ノ濫發ハ一ニ其發行ノ容易ナルニ存ス而シテ其濫發ノ害毒ノ大ナルハ一ニ其屈伸力ヲ有セサルニ存ス即チ利用價值ヲ有スル正貨又ハ常ニ正貨等ノ準備額ニ比例シテ増減スル兌換紙幣ニ在リテハ貨幣ノ價格ノ高下ハ直接間接ニ國際貿易ニ依リテ此力均衡ヲ保持スヘキモ國外ニ流出セタル不換紙幣ハ忽チ國內流通貨幣ノ膨脹ト爲リ價格ノ暴落ヲ告ケ物價ノ暴騰ヲ來スモノナリ即チ其濫發シ易キ所以ハ利用價值ナキ一ノ紙片タルニ存シ又同時ニ其害毒ノ大ナルヘキコトヲ示スモノナリ「ホワイ」氏カ「アッ」ニヤ「證券」ノ發行ニ付キ物理學上物體ノ高所ヨリ加速度ヲ以テ墜落スル原則ハ等シク不換紙幣増發ノ場合ニ生スル現象ニシテ財政上及ヒ經濟上戰慄スヘキ害毒ノ附隨スルニ拘ラス世人ハ恰モ醉狂者ノ如ク物價ノ騰貴事業ノ勃興等一時假面ノ現象ニ眩惑シ害毒ノ治ク浸蝕セラルルニ及ヒテ始メテ其非ヲ悟ルモノナリト曰ヘルハ又此理ヲ形容セルモノナリ

第十八世紀ノ終リ及ヒ第十九世紀ノ初ニ在リテハ諸國ノ人民紙幣ノ爲メニ損害ヲ被リシ者少カラス英國ニ於テハ一方ニハ自家ノ存亡ニ關聯シテ政府ノ行動ヲ牽制シ一方ニハ一般金融界ノ狀態ニ通曉セル銀行ノ手ニ由リテ發行セルモ猶ホ不換紙幣ノ下落ハ二割五分二五ニ達シ高下常ナク頗ル經濟界ヲ苦シメタリ然レトモ遂ニ銀行ノ破産ヲ見ルニ至ラザリシハ仍ホ銀行ニ由リテ發行セシメシ效果ニシテ彼ノ北米合衆國佛蘭西奧地利ノ如キニ至リテハ不換紙幣暴落ノ極殆ト其價格ヲ失墜シ破産ノ慘況ヲ見ルニ至レリ

佛國ノ「アツシニヤ」證券ハ利子及ヒ期限ヲ附シテ支拂ヲ爲スヘキ質入證書トシテ發行セラレシモノニシテ一年ヲ經スエタ千七百九十年五分ノ利子ハ三分ト爲シ尋テ同年中全ク無利子ト爲シタリ千七百九十二年ニハ發行高八億萬圓ヲ超エ毎年國內ニ増加スル貯蓄高及ヒ該證書ヲ償却スヘキ資本金ト其權衡ヲ失スルニ至リ隨テ期限來ルモ償却セララルコトナク一種ノ強制紙幣ト爲リ其後連年濫發セラレタ千七百九十三年ニハ流通高八十億圓ニ上リ千七百九十六年二月十九日ニハ千七百八十九年以後ノ發行ニ係ル「アツシニ

ヤ」紙幣ノ高百八十二億餘圓當時ノ流通高百六十億圓ノ巨額ニ達シ二十四「イブル」金貨ハ七千五百「イブル」「アツシニヤ」紙幣ト交換セラルルニ至レリ是レ「アツシニヤ」紙幣ハ濫發スルモ價格ヲ損セサルヘシトノ謬見ノ外ニ土地ヲ以テ貨幣ノ補助若クハ代用物ト爲ス紙幣ノ基礎ヲ爲スヘキコトヲ唱道シ十八世紀ノ初ニ於テ失態ヲ現ハセシ「ジョンロー」ノ愚ヲ再演セシモノナリ後千七百九十六年拂下殘リノ官有地ヲ抵當トシ「マングー」テレトリヤルト稱スル土地抵當紙幣九億六千萬圓ヲ發行シ「アツシニヤ」紙幣ノ三十倍ノ價格ヲ以テ交換ヲ爲スコトトシ破産ノ失態ヲ自白シテ辛ウシテ「アツシニヤ」濫發ノ害毒ヲ溯縫スルニ至レリ

奧地利ニ於テモ千八百十年ニハ不換紙幣ノ發行高十億圓ヲ超エ千八百十一年ニハ「國家屢不幸ニ遭遇シ物價騰貴シ紙幣ノ價格益々下落シ日甚高低常ナク銀貨百「フローリン」ヲ以テ紙幣千二百「フローリン」ニ交換セシコトアルニ至レリ云云」勅諭ト共ニ不換紙幣ノ通用ヲ止メ引換紙幣ナルモノヲ發行シテ五倍ノ價格ヲ以テ交換スルコトト爲セリ是レ佛國ノ「マングー」テレトリヤ

ル同一ノ窮策ニ出クシモノナリ其後屢兌換制度ニ復セントセシモ常ニ政治上ノ動搖ニ由リ之ヲ果スコト克ハサルハ世人ノ知ル所ナリ此他千八百六十一年以降南北戰爭ニ於ケル北米合衆國ノ「グリーン・バック」千八百六十六年伊埃戰爭後ノ伊太利ノ不換紙幣クリミヤ戰爭ニ於ケル露西亞ノ不換紙幣ノ如キ皆其失態ノ歸スル所ハ不換紙幣其モノニアラスシテ之ヲ所理スル方法ノ不可ナルニ基因セコト復タ言フ埃タサルナリ不換紙幣濫發ノ害毒ヲ便宜ノ爲メ列舉スレハ左ノ如シ是レ唯リ不換紙幣ノミニ限ラス一般ノ公債濫發ニ於テ等シク附帶スヘキ現象ナリトス

第一 社會政治上ノ弊害

イ 投機心ヲ挑撥ス
 ロ 奢侈ノ風ハ馴致ス
 ハ 背徳ノ弊ヲ助長ス
 ニ 勞働問題ヲ誘起ス

第二 經濟上ノ弊害

イ 紙幣下落シ物價騰貴ス
 ロ 正貨ノ流通停止シ正貨ハ海外ニ流出シ又ハ鎔解セラレ若クハ貯藏セラル
 ハ 事業ノ急激ナル濫興及ヒ其挫折
 ニ 貸借關係ノ紊亂
 ハ 投機事業ノ誘發及ヒ恐慌ノ發生
 ヘ 勞銀ノ實價ヲ減少シ貯蓄ヲ阻害ス
 ニ 濫費ニ伴フ資本増殖ノ抑制
 チ 貴富ノ動搖急激ニ失シ分配ノ秩序ヲ亂ス
 リ 濫發紙幣銷却ノ方法ヲ執ルモ一時市場ノ溢溜ヲ來シ各事業ノ進捗ヲ破壞ス

第三 財政上ノ弊害

イ 政府信用ノ基礎ヲ弱メ將來ノ起債力ヲ減殺ス
 ロ 政府發行ノ他ノ證券ノ價格ヲ低落ス

は 政府内外ノ行動ニ應スル實力ノ伸張ヲ失フ

に 收入ノ實力ヲ減殺シ經費ヲ増加ス

は 民力ノ疲弊ニ伴ヒ納稅力應募力ヲ弱ム

不換紙幣濫發ノ害毒ハ貨幣需要ノ増加ニ因ルカ若クハ紙幣銷却ノ方法ニ訴フルノ外善後策ナキモ前者ハ事實ニ於テ之ヲ望ムコト難ク後者ハ一時金融ヲ引締ムルニ因リ從來勃興セシ諸種ノ事業中道ニ挫折シテ市場ノ滯滯ヲ來シ下民ハ職ニ離レテ貧困憊ヲ重キ上流社會ハ奢侈ニ馴致セルノ餘又非常ノ苦厄ヲ受ケスルハアラス此ノ如ク不換紙幣濫發ノ害毒ハ大ニシテ且ツ之カ救正ニ難キヲ以テ此カ濫發ヲ慎ムヘキコト論ナク若シ之ヲ發行セサルヘカラサル時期ニ際會セハ宜シク金融市場ノ狀況ヲ觀察シテ正貨ト紙幣ノ間ノ權衡ヲ失ハサラシコトヲ力メ一方ニハ又外國貿易ノ順逆ヲ精査シテ外國爲替ノ逆戻又ハ順適ニ伴ヒテ紙幣ノ流通高ヲ緊張スル等金紙平分法ト外國爲替平分法トヲ併セ照應シテ內國ニ流通スル正貨ノ額ト紙幣ノ額トノ間ニ平均ヲ保持スルコトヲ要ス英國等ニ於テ不換紙幣ノ害毒比較的少カリシモ普佛戰後ノ佛蘭西ノ財政ノ

尙ホ此事ニ付テハ不法行爲ノ問題ヲ論スルニ際リテ説明スヘシ法人ノ國籍ニ付テハ公法上ノ法人ト私法上ノ法人トヲ區別スルコトヲ要ス公法上ノ法人ニ付テハ殆ト其國籍ヲ確定スル必要ナシ例ヘハ外國ノ地方團體ノ如キ其所在地タル國ニ國籍ヲ有スルモノナリトス然ルニ私法上ノ法人ノ國籍ニ付テハ屬其國籍ヲ確定スル必要ヲ生シタリ殊ニ歐洲大陸ニ於テハ從來甲國ニ於テ設立セラレタル會社カ乙國ニ於テ營業ヲ爲セタル場合尠カラザレハナリ殊ニ議論ヲ生シタルハ鐵山ノ發掘又ハ運送ヲ營業トスル會社ノ國籍是ナリ此點ニ付テハ歐洲ニ於テ二ノ主義アリ甲主義ニ依レハ營業ヲ實際營ム國ニ國籍ヲ有ストスルモノニシテ乙主義ニ依レハ本店ノ存在スル國ニ國籍ヲ有スト爲セリ奧太利ノ如キハ外國會社ノ國籍ニ付キ一ノ規定ヲ定メタリ即チ奧太利ニ於テ主タル營業所ヲ有シ且ツ主タル營業ヲ營ム會社ハ外國ニ於テ設立セラレタル場合ト雖モ奧太利ノ會社ト看做スヘキモノナリト然レトモ今日多數ノ國ニ於テハ法人ノ國籍ニ付キ規定ヲ設クス學者或ハ法人ノ國籍ハ即チ住所ニシテ國籍ニ付テ云云スル必要ナシト曰フ者アリ然レトモ外國ノ實例ヲ見ルニ自國ニ住所ヲ有

セタル法人ヲ尙ホ自國ノ法人トシテ處分スル例アリ隨テ法人ノ國籍ヲ研究スルハ必要ニアラサルヘシ

第十章 外國人ノ地位

本章ニ於テ説明スルハ外國人ノ私權ナリ這ハ外國人ノ公權ハ國際私法ノ研究ニ關係ナキカ故ナリ而シテ今日學者ノ定説ニ依レハ外國人ハ內國人ト同等ノ私權ヲ享有スヘキモノトス蓋シ私權ナルモノハ人類カ生存ヲ爲スカ爲メニ缺クヘカラサルモノニシテ內國人タル身分ニ附著スルモノニアラサルカ故ナリ此學說ハ佛國ニ於テ夙ニ唱ヘタル所ニシテ其說延テ歐洲大陸諸國ニ及ヒタリシカ佛國民法ハ同國ト條約ヲ締結シタル國ノ臣民ニアラサレハ其私權ヲ認メス此ニ於テ佛國民法ハ十二銅標時代ノ精神ヲ表示シタルモノナリトシテ佛國學者ノ一般ニ非難スル所ナリ此ノ如ク今日ニ於テハ外國人ノ私權ニ付テハ學問ニ殆ト議論ヲ見スト雖モ古代ニ於テハ何レノ國ニ於テモ外國人ヲ嫉視シイユリシグ氏ノ言ヘル如ク殆ト野獸ノ取扱ヲ爲シタリ然レトモ埃及國民ノ昔

キ其他古代ニ於テモ文明ノ程度カ進歩セタル國ニ於テハ比較的外國人ヲ優遇セリ例ヘハ埃及人ハ外國人ト婚姻スルコトヲ認メ殊ニ希臘人ト交通ヲ爲スニ當リテハ大ニ其權利ヲ保護セナクテラスナル居留地ヲ埃及國內ニ於テ設立スルコトヲ希臘人ニ許シタリ即チ希臘人ハ此居留地內ニ於テ總テ本國ノ法律ニ從ヒテ支配セラレ希臘ノ行政官及ヒ裁判官ヲ居留地ニ於テ任シタリ然ルニ希臘國民カ埃及ノ内地ニ旅行スル場合ニ於テハ埃及ノ法律ニ從ヒタリシモ内地ニ永住スル場合ニ於テハ家屋ヲ構ヘ商店ヲ設ケ土地ヲ所有スルコトヲ得タリト云フ

「フエニシヤ」人ハ有名ナル商業國民ニシテ常ニ外國人ト交通往來セシカ故ニ隨テ外國人ヲ嫉視スル念殊ニ薄ク外國ト條約ヲ締結スルニ方リテモ殆ト對等的ノ條約ヲ締結セリ唯同國民ハ信義ヲ重ンセス條約ヲ解釋スルニ方リテモ羅馬人ノ所謂「ブニカフヒデス」ヲ行ヒタリ蓋シ「ブニカフヒデス」トハ羅馬人カ「フエニシヤ」人ノ信義ナキコトヲ意味スル語ナリ

中世ノ初ニ於テハ外國人ノ權利ヲ一時大ニ制限シタルモ其後貿易ノ發達ト共

ニ各所ニ於テ自由市府ノ成立ヲ見ルニ至レリ而テ此自由市府カ外國人ヲ寬待セシコトハ全ク商業上ノ利益ヲ收メントセシニ外ナラス隨テ外國人ヲ一定ノ居留地内ニ屏居セシメ時間ヲ限リテ貿易ヲ爲サセタル例尠カラズ然レトモ概シテ外國人ノ負擔ヲ輕減セリ例ハ從來ニ於テハ外國人カ罪ヲ犯シタルトキ其朋友タル外國人又ハ親戚ヲ責任者ト看做シ其他民事ノ訴訟ニ付テモ外國人ニ莫大ナル保證金ヲ課シタル例アリシカ此時ヨリ漸ク其跡ヲ收メ保證金ノ如キハ單ニ訴訟費用ノ擔保トシテ徵收セララルニ至レリ又從來ノ制度ニ依レハ外國人カ死亡シタル場合ニ其財產ハ當然國庫ニ歸屬シタリシカ此時代ヨリ外國人ノ相続人カ之ヲ相続スルコトヲ得ルニ至レリ而シテ當時外國人ノ權利ヲ定メタル方法三アリ即チ法律ヲ以テ之ヲ定ムルモノ(例ハ英國ノ「マダナカルタ」)如シ或ハ行政官ノ認定ヲ以テ外國人ノ權利ヲ左右スルコトヲ得ルモノ歐洲大陸ニ於テハ此例殊ニ多シ及ヒ條約ヲ以テ定メタルモノ是ナリ此蓋ニ方リ十字軍ハ東西各國ノ交通ヲ媒介セシニ因リ歐洲ノ貿易上ニ一大變動ヲ與ヘタリ即チ地中海ノ諸島並ニ伊太利ノ海岸ニ位スル諸國ニ於テハ貿易非常

ニ發達シ殆ト歐洲ニ於ケル貿易ノ中心ト爲ルニ至レリ隨テ伊太利ノ海岸ニ發達シタル商慣習ハ外國ノ商人ニモ之ヲ適用シ殆ト内外人ヲ區別セサルニ至レリ伊太利法典カ今日内外人同等ノ主義ヲ規定スルハ其由來スル所久シト謂フヘシ又伊太利ノ内地ニ於テハ手形株式運送取扱銀行保險等ノ諸制度類リニ發達シ外國ニ於テモ之ヲ採用スルニ至レリ學者カ所謂伊太利ハ四法ヲ以テ天下ヲ統治スト云ヘルハ所以ナキニアラス蓋シ四法トハ民法、商法、貴族制度及ヒ宗教法ヲ謂フ而シテ伊太利商法ノ傳播ト共ニ外國人ノ權利ヲ制限スル風益減少スルニ至レリ然レトモ內國人カ外國人ノ爲メニ備ハレ又ハ外國人カ內國人ト會社ヲ組織スルコトヲ禁セタル例尠カラズ而シテ當時外國人ハ大抵居留地内ニ住居セシカ故ニ居留地ハ一ノ貿易場タリ而シテ往往內國人ニ物品ヲ賣リタル後ニアラサレハ他ノ外國人ニ其物品ヲ賣ルコト能ハストノ禁止ヲ爲セシ國勢カラス所謂內國人ノ先買權ナルモノ是ナリ

居留地ナキ國ニ於テハ外國人ハ內國人ト雜居スルコトヲ得タルモ所謂「ザイル」トフ保護ヲ受ケサルヘカラス蓋シ「ザイル」トハ外國人ヲ己ノ家ニ寄宿セシム

ル人ノ謂ニシテ「ヴィルト」ノ家ニ寄宿セサル外國人ハ其權利ヲ侵害セラルルモ
 法廷ニ訴フルコト能ハサリキ
 中世ニ於ケル外國人ノ權利ニ付、キ一異例ヲ示シタルモノハ「ハンザ」同盟ナリ
 蓋シ「ハンザ」同盟ハスレーヴ人其他ノ暴民ヲ防シ、爲メニ起リタルモノニシ
 テ「ハンブルヒ」「ブレーメン」等ノ間ニ組織セラレタル團體ヲ謂フ此團體ハ後ニ商
 業上ノ利益ヲ共同ニ保護センコトヲ約シ、恰モ國際法上ノ主體ノ如ク看做サレ
 タリ此團體ハ歐洲北部ノ貿易權ヲ握リタルカ爲メ諸外國ノ人民ト交通スルコ
 ト頗ル盛ニシテ其勢力大ナリシカハ英國其他ノ國ニ於テ多クノ特權ヲ享有ス
 ルニ至レリ就中英國ニ於テハ「ハンザ」同盟ノ人民ハ一種ノ治外法權ヲ享有セ
 又英國ノ法律ニ依ラスシテ隨意ニ會社ヲ組織セ若クハ集會ヲ爲スコトヲ得タ
 リ然レトモ「ハンザ」同盟ハ自國內ニ來リタル外國人ニ對シ自國人カ英國ニ於
 テ得タルト同一ノ權利ヲ認メサリキ此ノ如ク「ハンザ」同盟ハ外國人ノ地位ニ
 付キ一異例ヲ示シタレトモ同盟ノ勢力地ニ墮ツルト同時ニ此一異例モ其跡ヲ
 收ムルニ至レリ

英國ニ於テハ「ハンザ」同盟トノ交通ニ因リ大ニ商業上ノ智識ヲ得タリシヲ以
 テ晩年ニ至リ漸ク「ハンザ」同盟ノ商人ヲ疎外スルニ至リ之ト同時ニ外國人ノ
 權利ヲ制限スルニ至レリ學者カ往往英國ヲ稱シテ外人嫌視主義ヲ採リタル國
 ナリト稱セシハ全ク此時代ヲ指シタルモノト謂フヘシ然レトモ英國ハ近世ノ
 初ヨリ全然平等主義ニ傾キ歐洲大陸ニ於テモ居留地ノ撤廢ト共ニ復タ近世ノ
 學說ヲ全然迎フル傾向ヲ生スルニ至レリ
 次ニ近世ノ制度ヲ説明スヘシ

本論ノ初ニ於テ已ニ一言シタルカ如ク今日ノ學說ハ平等主義ニ一定セリト雖
 モ往往相互主義ヲ本據トシテ平等主義ヲ認ムル團體カラス隨テ相互主義ノ衝
 突起ルヤ明カナリ

伊太利ニ於テモ法律ノ規定ハ亦平等主義ナリト雖モ學者ハ許多ノ例外ヲ認メ
 而シテ此例外ノ範圍頗ル大ナルカ故ニ法典ノ認メタル平等主義ヲ援ヘスモノ
 ト謂フヘシ「スイス」ハ嘗テ外國人ノ私權ニ關スル現行ノ制度ヲ三種ニ分類セタ
 リ即チ條約上ノ相互主義法律上ノ相互主義及ヒ平等主義ノ國是ナリ而シテ動

產ニ關スル外國人の權利ハ何レノ國ニ於テモ之ヲ制限セサルヲ原則トシ中世以降行ハレタル遺產税ノ如キモ今日ニ於テハ殆ト其跡ヲ絶ツニ至レリ然ルニ不動產ニ付テハ各國ニ於テ往往之ニ關スル權利ヲ制限セリ例ヘハ日本及ヒ北米合衆國ノ數邦ノ如キ是ナリ露西亞ハ從來亦同一ノ規定ヲ設ケタリシカ近年ニ至リ同國ノ或部分ヲ除ク外一般ニ此禁止ヲ解クニ至レリ

會社ヲ組織スル權利ニ付テハ今日之ヲ制限スル例頗ル多シ蓋シ會社殊ニ商事會社ハ伊太利佛蘭西ノ學者カ所謂國際公安ニ關スルカ故ナリ

外人ノ營業權及ヒ領土ノ發掘權ニ付テモ亦之ヲ制限スル例尠カラズ

我民法第二條ニ曰ク外國人ハ法令又ハ條約ニ禁止アル場合ヲ除外私權ヲ享有ス此規定ハ伊太利ノ法典ト同シク近世ノ學理ヲ代表シタルモノナリ抑モ外國人ノ私權ヲ非認スル規定ハ今日全ク其跡ヲ絶チ英米ニ於テモ實際上ニ於テハ殆ト平等主義ヲ採用ヒリ蓋シ千八百八十年國際法協會ニ於テ萬國ノ學者カ公言セタル如ク私權ハ實ニ人類ノ生存ニ伴フモノナルカ故ニ我國ノ如ク内外人間ニ區別ヲ認メタルハ固ニ當ヲ得タルモノト謂フヘシ或ハ相互主義ヲ採ラサル

ハ我法典ノ缺點ナリト曰フ者アレトモ條約上ノ相互主義若クハ法律上ノ相互主義ノ何レヲ採ルモ蔽フヘカラサル一大缺點アリ即チ條約上ノ相互主義ヲ採ル國ニ於テハ無條約國ノ臣民ヲ人格者ニアラストスル結果ヲ生スレハナリ此主義ヲ採用スル佛蘭西白耳義等ノ立法例ヲ學者ノ非難ヲ受クルハ之ニ因レリ左レハ佛國ノ如キハ民法ノ明文アルニ拘ラス實際上ニ於テハ殆ト平等主義ヲ採用セリ法律上ノ相互主義ト雖モ又或種ノ外國人ヲ人格者ニアラストスル結果ヲ生スルノミナラス法律上ノ相互主義カ互ニ衝突スル場合ニ於テハ到底之ヲ救済スル途ナシ隨テ法律上ノ相互主義ヲ各國ニ於テ採用スルハ最も危險ナリ是ニ由リテ之ヲ觀ルモ我民法第二條ノ如キハ最も適當ナル規定ナリト謂フヘシ或ハ同條ニ法令ナル文字アルハ行政權ヲ以テ外國人ノ私權ヲ制限スルコトヲ認ルモノニシテ平等主義ヲ採用シタル精神ト低觸スルモノナリト云フ者アルモ種種ノ事情ニ徴スルモ行政權ヲ以テ外國人ノ私權ヲ制限スル必要アルコトハ外國ノ例ニ徴シテ之ヲ知ルヘシ

嘗テ我議會ニ右第二條ニ對スル修正案ヲ提出シタル者アリ此案ニ依レハ法令

及ヒ條約ニ於テ認許スル場合ニ限リ私權ヲ享有スルコトヲ得ルモノニシテ外國人ハ私權ヲ享有セスト爲ス英米ノ舊主義ヲ代義シタルモノナリ此主義ハ今日ノ定論ニ反スルノミナラス法律ヲ以テ外國人カ私權ヲ享有スル場合ヲ一列舉スルカ如キハ到底爲シ得ヘキ事ニアラス然ルニ又右第二條ヲ削除セントスル說ヲ作ス者アリ蓋シ該條ハ當然ノ事ヲ規定シタルモノナルカ故ニ無用ノ條文ナリトスルハ此說ノ理由ナルカ如シ然レトモ排外思想ノ盛ナル我國ニ於テ法律ノ精神ヲ誤解スル者之ナキヲ保スヘカラス故ニ外國人ノ私權ニ付キ何等ノ規定ヲ設ケサルハ危險ナリト謂ハサルヘカラス又或學者ハ第二條ヲ削ルハ第一條ノ規定アルカ故ニ外國人カ私權ヲ享有スヘキコト當然ニシテ第二條ハ重複ノ法文ナリト曰フ者アリ蓋シ出生ナル文字ニ重キヲ置キタルモノニシテ出生トハ日本臣民ノ出生ノミヲ指スニアラス獨逸民法ノ如ク人類一般ノ出生ヲ意味スルモノナリト解釋セリ然レトモ我民法ノ明文ハ獨逸民法ト異ナルモノナルカ故ニ余輩ハ此說ニ賛成スルコトヲ得ス此ノ如ク我國ニ於テハ原則上外國人ヲ內國人ト同等ナリトシテ認ムルモノナレトモ一國經濟上ノ必要ヨ

リ外國人ノ私權ヲ制限スル實例一ニシテ足ラス例ヘハ外國人ハ日本ノ國籍ヲ有スル船舶ノ所有者タルコト能ハス又或種ノ銀行ノ株主タルコト能ハス不動產殊ニ土地ノ所有者タルコト能ハサルカ如キ是ナリ此例外ハ國家カ自衛權ノ結果ニシテ固ニ已ムヲ得サルモノナリ

第十一章 住所

今日英米並ニ南米及ヒ歐洲大陸ニ於ケル少數ノ國ヲ除クノ外國私法ノ學說及ヒ實例ハ何レモ人ノ本國法ヲ標準トシテ諸種ノ問題ヲ決定セリ蓋シ我國ヲ始メ近來ノ學說及ヒ立法例カ住所主義ヲ棄テテ本國法主義ニ傾キタル所以ノモノハ左ノ理由ニ出ツルモノナリ即チ外國人ノ住所ハ主權者及ヒ當事者ノ意思ニ因リテ何時ニテモ之ヲ變更スルコトヲ得之ニ反シテ國籍ノ變更ハ住所ノ如ク容易ニ行ハルルモノニアラス又住所ハ之ヲ有セサル者アルカ故ニ其住所法ヲ適用スルニ由ナキコトアリ國籍ニ付テモ亦之ヲ有セサル者アリト雖モ今日ノ實例ハ何レモ之ヲ救済スル方針ヲ採レリ且ツ又住所ハ二箇以上ヲ有ス

ル者アルカ故ニ其住所法ヲ適用スル場合ニ困難ヲ感スヘシ然ルニ國籍ノ衝突
ニ付テハ學說上之ヲ認メサルノミナラス今日ノ實例ハ多クハ之ヲ豫防スル方
針ヲ探レリ尙ホ住所ノ衝突及ヒ無住所ノ問題ハ後段ニ之ヲ説明スヘシ
此ノ如ク本國法主義ハ今日多數ノ國ニ於テ採用スル所ナレトモ尙ホ此等ノ國
ニ於テ國際私法上住所ノ問題ヲ研究スル必要アリ例ヘハ辨濟、債權ノ讓渡等ノ
場合即チ是ナリ殊ニ住所ハ民事訴訟法ニ密著ノ關係アルカ故ニ國際訴訟法ヲ
國際私法ノ一部分ナリト爲ス國ニ於テハ特ニ之ヲ研究スル必要アリ左レハ佛
蘭西法系ノ國例ヘハ佛蘭西和蘭伊太利等ハ民法中ニ之ヲ規定スレトモ埃太利
其他ノ國ニ於テハ民事訴訟法中ニ之ヲ規定スルモノ多シ
余輩ハ住所ニ付キ左ノ如ク定義ヲ下サントス

住所トハ人カ其生活條件ヲ充タス爲メ根據ト爲シタル場所ヲ謂フ
尙ホ有名ナル學者ノ定義二三ヲ示スヘシ

「サビニー」曰ク

住所トハ人カ永住ノ目的ヲ以テ其法律關係及ヒ業務ノ中心トシテ任意ニ選

定シタル場所ヲ謂フ

「ワインドシャイド」曰ク

住所トハ人ノ種種ノ關係及ヒ業務ノ中心トシテ任意ニ選定シタル場所ヲ謂フ
「デルンブルヒ」ハ頗ル簡單ニ之カ定義ヲ與ヘタリ曰ク

住所トハ人ノ行爲ノ中心ヲ謂フ

以上ノ說ハ何レモ主觀主義ニ屬スルモノナリ然レドモ余輩ハ此等ノ中心說ニ
満足セサル者ナリ蓋シ中心說ノ羅馬法ヨリ來リタルモノニシテ羅馬法學者ハ
中心說ヲ唱フル者頗ル多シ然ルニ羅馬法學者ハ二箇以上ノ住所ヲ認ムルカ故
ニ中心說ト擅著スルモノト謂ハサルヘカラス蓋シ情圖ニハ二箇ノ中心アルモ
「サビニー」「ワインドシャイド」等カ認メタルカ如ク住所ノ數ハ必スシモ二箇ニ
止マラス三箇以上之アルヘキカ故ニ三箇以上ノ中心アリトハ理論上言ヒ得ヘ
カラサルモノナレハナリ

次ニ「ハイム」曰ク

住所トハ人ノ法律的生存ノ中心ヲ謂フ

此定義ハ又中心說ヲ代表シタルカ故ニ以上ノ駁論ヲ以テ之ヲ批評スルコトヲ得ルノミナラス法律の生存ナル語ハ「モンゼン」及「ペール」カ評シタル如ク廣汎ニ失スルナキカ蓋シ住所ハ總テノ法律上ノ生存ノ中心ト看做サレタルモノニアラス例ヘハ刑法ノ如キクハ刑事訴訟法ノ如キ人ノ住所ト密接ノ關係ヲ有セザルモノナリ民事訴訟法及民法ノ如キハ勿論人ノ法律の生存ノ中心ナル觀念ヲ以テ住所ヲ意味セリト言ヒ得ヘキモ法律界ノ一部分ニ過ギザルカ故ニ法律の生存ノ中心トハ少クモ住所ノ性質ヲ誤解スルモノト謂フヘシ「ボチエー」曰ク

人カ住居及ヒ業務ノ使用トシテ定メタル場所ヲ住所ト謂フ
「クラウドン」曰ク

住所トハ人カ其財產ヲ管理シ諸般ノ事業ヲ處理スルカ爲メニ住居スル場所ト其人トノ無形上ノ關係ヲ謂フ
「グアッナル」曰ク

住所トハ永住ノ目的ヲ以テ一定ノ場所ニ住居スルヲ謂フ

又米國ノ「ボワルトン」曰ク

住所トハ終局ノ住所トシテ取得シタル家宅ヲ謂フ

以上ノ定義ハ何レモ中心說ヲ避ケタルモノナルカ故ニ獨逸學者ノ定義ニ比シテ多少優ル所アルカ如シ但シ以上ノ定義カ主觀主義ニ屬スルヤ或ハ客觀主義ニ屬スルヤハ明カナラスト雖モ主觀主義ヲ採リタル佛蘭西民法第百二條ハ「ボチエー」ノ說ト相類スル所ヲ見レハ少クモ「ボチエー」ハ主觀主義ヲ採リタルモノト謂フコトヲ得ヘシ從來佛蘭西學者ハ大抵主觀主義ニ屬スルカ如シ以下此兩主義ノ優劣ヲ批評スヘシ

主觀主義ヲ代表スル佛蘭西民法ノ註釋者ハ何レモ主觀主義ヲ主張セリ「ワハリエ」氏ノ說ニ依レハ佛蘭西民法ノ所謂生計ノ主要地若クハ生計ノ本據ト譯スヘキ「ブランシバール」ニ「エタブリスマン」ナル語ハ生活ノ中心ナリト解釋セリ蓋シ佛蘭西舊法ニ依レハ羅馬民法ト同シク二箇以上ノ住所ヲ認メタルモ現行法ニ於テハ唯一ノ住所ヲ認メタルカ故ニ「ワハリエ」氏ノ說ハ佛蘭西民法ノ解釋トシテハ勿論妨ナシト雖モ數多ノ住所ヲ認ムル獨逸民法ノ正文佛蘭西民法ト殆ト同一ナリ

ヲ解釋スルニ當リ尙ホ中心說ヲ主張スルハ解スヘカラサル所ナリ而シテ主觀主義ヲ採リタル法律ノ下ニ於テ住所ノ構成條件トシテ意思及ヒ事實ノ二ヲ必要ト爲スハ殆ト反對說ヲ見サル定說ナリトス即チ永久又ハ不定ノ目的ヲ以テ住居ヲ定ムルコト是ナリ而シテ此等ノ國ニ於テ住所アルコトヲ證明セントセハ先ツ住所ナル事實カ本人ノ意思ニ相當スルモノナルヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス英國若クハ佛國ニ於テハ本人ノ意思ハ直接ニ口頭若クハ書面ヲ以テ表示スルコトヲ認ムレトモ其他ノ國ニ於テハ此ノ如キ意思表示ノ方法ヲ認メサルモノ頗ル多シ隨テ住所ノ有無ヲ知ルハ容易ニ業ニアラス英佛ニ於テハ本人カ虛偽ノ申立ヲ爲スコト往往之アルカ故ニ英佛ノ方法ハ未タ完全ナリト謂フヘカラス之ニ反シテ客觀主義ニ依レハ單ニ生活ノ本據タル事實ノミニ依リテ住所ノ有無ヲ決シ本人ノ意思如何ヲ問ハサルカ故ニ證明ノ點ニ於テ頗ル容易ナリトス加之客觀主義ハ今日ノ法律取引ニ最モ良ク適合スルカ故ニ現今未タ其勢力ヲ得スト雖モ將來各國ノ立法例ニ於テ採用セラルルノ日アルヘシ現ニ瑞西聯邦内ニ於テハ客觀主義ヲ認ムル實例尠カラス我民法ハ佛國民法ト其法

文ヲ同シウスルカ故ニ或ハ主觀主義ヲ採リタルモノトシテ之ヲ解釋スル者ナキニアラサルモ佛國民法ト同シク單ニ明文上ヨリ觀レハ寧ロ客觀主義ヲ採リタルモノト解釋スルコトヲ得ヘシ佛國民法ト雖モ住所變更ノ場合ニ主觀主義ヲ採リタルニ由リ始メテ其全體ニ於テ主觀主義ヲ採リタルコトヲ知リ得ルモ我民法ハ佛蘭西民法及ヒ獨逸民法ト異ニシテ住所變更ノ場合ニ主觀主義ノ規定ナキニ由リテ之ヲ觀レハ佛國民法及ヒ獨逸民法ト全ク其主義ヲ異ニスルヲ知ルニ足ルヘシ殊ニ民法草案起草者ノ意見ハ客觀主義ヲ採用シタリト聞ケリ

次ニ住所ノ範圍ヲ説明スヘシ

民法上住所ハ如何ナル土地ノ區域ト結合スルヤ例ヘハ住所ハ日本國全體ニ於テ其範圍ヲ有スルヤ或ハ東京ニ住所ヲ有スル者ハ東京全體ニ於テノミ其範圍ヲ有スルヤ蓋シ住所ノ範圍ハ法律ノ規定ニ依リテ同一ナラサルカ如シ例ヘハ訴訟上ニ於テ訴訟物ノ價額ニ依リ一定ノ地方團體ニ住所アリト看做スコトアリ或ハ是ヨリ廣大ナル地方團體ニ住所アリト看做スコトアリ或ハ單ニ一定ノ

家宅ノミヲ以テ住所ト看做スコトアリ然ラハ國際私法上ニ於テモ亦此範圍ハ
全ク同一ナリヤ否ヤハ一ノ問題ナリ例ヘハ我國ニ來リタル獨逸人カ本國ノ普
漏西ニ於テ住所ヲ有シ且ツ「バイエルン」ニ於テモ住所ヲ有シタル場合ニ我法例
ニ依リ其住所ニ行ハル法律ヲ適用セントスルトキハ「バイエルン」全體ノ範圍
ヲ以テ住所ノ範圍ト看做スヘキヤ此場合ニ於テハ本人ハ獨逸國內ニ於テ二箇
ノ住所ヲ有スルモ外國ニ對シテハ仍ホ一箇ノ住所ヲ有スルモノト謂フヲ得ヘ
キカ如シ又獨逸國ニ於ケル獨逸人ニシテ獨逸國內ニ一ノ住所ヲモ有セサルコ
トアリ此場合ニ國際私法上仍ホ無住所ノ臣民ト看做スヘキヤ否ヤ獨逸ノ法律
ヨリ觀レハ住所獨逸ニ有セサルハ疑ナシト雖モ之ヲ他ノ國ヨリ觀ルトキハ
本人ノ生計ノ本據ハ獨逸ニ在リト謂フコトヲ得ヘシ彼ノ獨逸國內ニ於テ各所ニ
轉商スル行商ノ如キハ獨逸法學者カ屬無住所ノ人民トシテ吾人ニ教フル所ナ
リ然レトモ萬國ノ大社會ヨリ之ヲ觀レハ獨逸ニ於テ生活ノ本據ヲ有スルコト疑
ナカルヘシ唯獨逸國內ノ一定ノ土地ニ住所ヲ有セサルニ過キサレナリ我法例ハ
此問題ニ付キ如何ナル説明ヲ爲スヤハ吾人ノ研究セントスル所ナリ我法例ニ

於テハ住所ノ觀念ハ我法律ニ依リ之ヲ定メサルモノノ如シ例ヘハ我法例ハ住
所ノ衝突ヲ認メテ其救済ノ方法ヲ規定シタリ假ニ我民法カ唯一主義ヲ採リタ
ルモノトセハ住所ノ衝突ヲ生スル必要ナカルヘシ法例起草者ハ住所ニ付キ唯
一主義ヲ採リタルニ拘ラス猶ホ且ツ此ノ如キ規定ヲ設ケタルハ住所ノ觀念ヲ
外國ノ法律ニ依リテ定ムルノ趣意ナルコト明白ナリ即チ前ニ示シタル獨逸人
ノ例ヲ以テ觀レハ右獨逸人ハ「バイエルン」及ヒ普漏西ニ於テ住所ヲ有スルモノ
ト認メタルモノニシテ獨逸法律ニ依リ住所ノ觀念ヲ定メタルモノナリ然レト
モ住所ノ範圍ニ至リテハ外國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ムルニアラスシテ一ノ法
境ニ依リテ之ヲ定ムルモノトス隨テ我國ニ來リタル獨逸ノ臣民ニシテ普漏人
タル者カ普漏西ニ於テ二箇ノ住所ヲ有スルコトアルモ我法例ヨリ之ヲ觀レハ
其實唯一ノ住所ニ過キサレモノトス何トナレハ普漏西ハ同一ノ法境ヲ有シ二
箇ノ住所ハ等シク同一ノ法律ノ下ニ於テ有スルモノトス然ルニ我法例ノ住所
ハ法律適用ノ標準トシテ之ヲ認ムルニ過キス故ニ我法例ヨリ觀レハ同一ノ法
境ニ屬スル外國内ニ於テ二箇ノ住所ヲ有スルモ其實一箇ノ住所法トシテ之ヲ

適用スルモノナリ然ラハ我法例ノ所謂二箇以上ノ住所トハ二箇以上ノ住所ヲ各異ナリタル法境ニ於テ有スル場合ナリトス
外國ニ於テ住所ヲ有セサル者ハ我法例ヨリ之ヲ觀レハ等シク無住所ノ人民ナリ即チ我法律ハ外國ノ全體ニ於テ生活ノ本據アル場合ヲ想像セサルモノニシタ今日ノ學說モ亦何レモ之ト同一ナリ
次ニ住所ノ種類ヲ説明スヘシ

我國ノ學者ハ住所ヲ分チテ任意住所及ヒ法定住所ノ二ト爲ス者アリ或ハ右ノ外本住所及ヒ假住所ノ四種ト爲ス者アリ英米ノ學者ハ概テ固有住所選擇住所及ヒ法定住所ノ三種ヲ認メ蓋シ住所ノ問題ニ付尤モ研究ヲ爲シタル者ハ英、米ノ學者ナルカ故ニ少ク其說ヲ紹介スヘシ固有住所或ハ出生住所トハ人カ出生ニ依リテ取得スル住所ヲ謂フモノニシテ選擇住所トハ固有住所ヲ棄テテ新ニ他ノ住所ヲ取得スル場合ヲ指稱ス而シテ法定ノ住所トハ本人ノ意思如何ヲ問ハス法律上ノ結果トシテ當然取得スル住所ヲ謂フ例ハ妻カ夫ノ住所ニ從フ如キ是ナリ英國ノ碩儒「フイリモア」ノ說ニ依レハ英國ニハ十五ノ法定住所

アリト云フ右住所ノ三分類ハ正當ヲ得タルモノニアラサルカ如何トナレハ出生ニ依リ父母又ハ生地ノ住所ヲ取得スルモ亦法律ノ結果ナレハナリ左レハ「フリート」如キハ住所ヲ固有住所取得住所ノ二ト爲セリ然ルニ此分類モ亦服スルヲ得ス何トナレハ固有住所モ亦法律ノ結果ニ依リテ取得スルモノナレハナリ而シテ「フリート」ハ取得住所中ニ所謂法定住所ヲモ編入スルニ至リテハ益々其證當ナラサルコトヲ知ル而シテ佛國ノ學者ハ政事上ノ住所租稅上ノ住所民事上ノ住所等ヲ區別セリ獨逸學者ハ住所ヲ二大別シ任意及ヒ法定ノ二住所ト爲セリ此說蓋シ正當ナラン任意住所ハ本人ノ意思ニ因リテ取得スル場合ヲ指稱スルモノナレトモ客觀主義ノ國ニ於テハ單ニ法律ノ結果ニ依ラサル場合ノミヲ指稱セリ而シテ法定住所ハ今日各國ニ於テ概テ認ムル所ナルカ今日一般ニ採用セラレタルモノハ左ノ數種ナリトス

第一 妻ノ住所 妻ハ夫ノ住所ニ從ヒ獨立ノ住所ヲ設定スル能ハサルハ羅馬法以來英佛獨其他ノ國ニ於テ一般ニ採用セラレタル規定ナリトス蓋シ夫婦住所ヲ共ニセサルトキハ婚姻ノ目的ヲ達スル能ハサルニ因レリ我國ニ於テハ妻

ノ住所ニ付キ特別ノ規定ナキモ妻ハ夫ト同居スル義務アルカ故ニ其結果ハ諸外國ト同一ナリ而シテ英國ニ於テハ妻カ夫ト離婚スル場合ニハ獨立ノ住所ヲ設定スルコトヲ得ルハ勿論ナレトモ夫ノ承諾ヲ得テ別居スル場合ニ於テハ依然トシテ夫ノ住所ニ從フ又歐洲大陸ノ某國ニ於テハ婚姻解消後ト雖モ妻ハ夫ノ住所ニ依ル我國ニ於テハ此ノ如キ規定ナク且ツ我民法カ果シテ客觀主義ヲ採リタルモノトモハ婚姻解消後ニ於ケル妻ノ住所ハ一ノ事實問題ナルヘシ

第二 未成年者 未成年者カ親權ヲ有スル者ノ住所ニ從フコトニ付テハ亦前ノ場合ト同シク一般ノ國ニ於テ認メラレタル規定ナリ我國ニ於テモ親權ヲ有スル者ハ子ノ住所ヲ指定スルコトヲ要ス然ルニ子カ修學ノ爲メ外國ヘ赴キタル場合ニ於テハ從來種種ノ問題ヲ生セリ羅馬法ニ於テハ子ハ親權ヲ有スル者ノ住所ニ從フヲ原則トスレトモ學生ハ一定ノ期間親權者ノ住所以外ニ居所ヲ有スル事實ニ依リテ當然獨立ノ住所ヲ取得セリ羅馬法王モ亦同一ノ事ヲ認メタリシカ今日ニ於テハ斯ル規定ヲ設クル國ハ北米合衆國「マツシヤフデュー」ニ於テ僅ニ其例ヲ見ルノミ

其三 終身ノ禁錮者 犯罪ノ爲メニ終身監獄ニ禁錮セラレタル者ハ監獄ニ於テ住所ヲ有スルコトハ古來一般ニ認メラレタル所ナリ

第四 軍人 獨逸民法ハ軍人ノ住所ハ兵營所在地ニ在リト規定セリ此例ハ古來外國ニ於テモ屢見ル所ナリト雖獨逸民法ハ兵役義務者ノミヲ例外ト認メタリ

住所ヲ設定スルニ意思及ヒ之ニ相當スル事實アルコトヲ要ストハ主觀主義ヲ採用スル學者竝ニ判決例ノ等シク唱フル所ナリ英米ノ學說ニ依レハ所謂固有住所ハ父又ハ母ノ住所若クハ出生地ニ於テ當然取得スルモノニシテ意思ノ存在ヲ要セスト爲セリ然レトモ生後ノ住所即チ「フリー」ノ所謂取得住所ヲ取得スル場合ニ於テハ右ニ示シタル二箇ノ條件ヲ要スルコトヲ爲セリ而シテ住所ヲ設定スル行爲ハ我民法及ヒ佛蘭西民法等ニ依レハ一ノ法律行爲ナリ假ニ主觀主義ニ依リテ説明スレト雖モ獨逸ニ於テハ之ヲ以テ法律行爲ト認メス隨テ法律行爲ヲ爲ス能力ナキ者ト雖モ住所ヲ設定スルコトヲ得ヘシ但シ法定代理人ノ同意アルコトヲ要ス即チ獨逸民法ハ此條ニ依リテ住所ヲ設定スル能力ト

法律行為ヲ爲ス能力ト全ク相異ナルコトヲ明カニセリ之ニ反シテ客觀主義ニ依レハ法律行為ノ集合地ハ即チ住所ナルカ故ニ單ニ此一事實ヲ以テ住所ノ存在ヲ定ムルコトヲ得ヘシ或ハ我民法ノ客觀主義ヲ採タルコトヲ證明セシカ爲メニ我民法ハ無能力者ノ住所ニ在テ規定ヲ設ケサルコトヲ理由トスル者アルモ無能力者ノ居所ハ自ラ之ヲ定ムルコト能ハサルカ故ニ右ノ理由ヲ以テ我民法ノ客觀主義ヲ採リタルコトヲ證明スルニ足ラサルヘシ

今日一般ノ學說ニ依レハ住所廢棄スル場合ニ於テモ亦意思及ヒ事實ノ二要素アルコトヲ要ストセリ例ヘハ甲地ニ於テ住所ヲ有シタル者カ乙地ニ住所ヲ移サント欲シ其意思ヲ口頭若クハ書面ニテ表示スルモ未タ居所ヲ移ササルトキハ依然トシテ甲地ニ住所ヲ有スヘク之ニ反シテ乙地ニ全ク居所ヲ移スモ所謂永住ノ意思カ尙ホ甲地ニ在ルトキハ依然トシテ甲地ニ於テ住所ヲ有スルコトト爲レリ此說未タ余輩ノ理會スル能ハサル所ナリ何トナレハ主觀主義ヲ唱フル者ノ言ヘルカ如ク住所ノ設定ニ意思及ヒ事實ノ二ヲ要ストセハ其一ヲ失フノミニテ已ニ住所ノ本體ハ其實ヲ失ヒタルモノト謂ハサルヘカラサレハナ

ヲ然レトモ此一般ノ學說ハ英米ハ勿論歐洲大陸ノ實例ニ於テモ採用セラルル所ナリトス而シテ瑞西ニ於テハ舊住所ヲ實際喪失シタルニ拘ラス即チ意思及ヒ事實ノ二カ全ク消滅シタルニ拘ラス猶ホ新ニ住所ヲ取得セタル間ハ舊住所ノ存在ヲ認メリ是レ一ノ法律の假定ニシテ特ニ明文ナキ國ニ於テハ之ヲ認ムルコトヲ得サルナリ余輩ノ知ル所ニ依レハ紛クトモ獨逸ニ於テハ之ヲ認メス佛國ニ於テモ亦然ルカ如キ之ニ反シテ英米ニ於テハ瑞西ト全ク同様ナリトス尙ホ住所ノ廢棄ニ付テ無住所ノ場合ヲ説明スヘシ

英米ノ判決例ハ人ハ必ス住所ヲ有セサルヘカラストノ原則ヲ確定セリ然ルモ英國以外ノ國ニ於テハ何レモ皆無住所ヲ認メサルハナシ瑞西ノ如キハ英米ノ如ク一般ニ無住所ヲ否認スル傾アレトモ猶ホ且ツ浮浪ノ徒行商等ヲ以テ無住所ノ人ナリトセリ獨逸ニ於テハ「サビニ」カ嘗テ無住所ノ三例ヲ示シタルシカ今日一般ニ之ヲ認メタリ「サビニ」ノ三例トハ第一舊住所ヲ廢棄シテ未タ新住所ヲ取得セサル者第二浮浪ノ徒第三行商是ナリ英國ニ於テ會テ問題ト爲リタルハ固有住所ヲ廢棄セタル者カ新ニ住所ヲ取得シ而シテ此新住所ヲ更ニ廢棄

シタル場合はナリ此場合ニモ無住所説ヲ唱フル者アリシカ「ウドニ」對ウ「ドニ」判決以來固有住所ハ當然復活スルコトナレリ而シテ英國ニ於テハ判決ハ以テ法律ノ不備ヲ補フコトヲ得ルカ故ニ同國ノ判決例ハ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノニシテ判決ハ全ク立法ノ作用ヲ爲スモノナリ隨テ「ウドニ」對ウ「ドニ」判決ハ固有住所復活ノ明文ヲ特ニ設ケタルト同一ノ結果ヲ有スルモノニシテ今日ニ於テハ更ニ新ナル判決例ヲ生スルニアラザレハ此規定ヲ覆ヘスコト能ハス然ルニ「ウドニ」對ウ「ドニ」判決例ヲ外國ノ學者カ往々其國法ノ解釋トシテ援用スル者アルハ頗ル解セサル所ナリトス蓋シ一旦消滅シタル住所カ更ニ復活スルコトハ明文ナキ國ニ於テ論理上當然認ムヘキモノニアラザレハナリ

此ノ如ク無住所ノ人アルカ故ニ之ヲ認ムル國ニ於テハ居所ヲ以テ之ヲ補フ例尠カラス例ヘハ日本、獨逸其他ノ實例皆然リトス

次ニ研究スヘキハ一人ニシテ數多ノ住所ヲ併有スル場合アリヤ否ヤノ問題はナリ學者カ所謂複住所或ハ住所ノ衝突ナル名稱ヲ之ニ付スルモノナリ

英國ニ於テハ從來複住所ニ付テ議論アリシカ「ソマビール」對「ロートフマビール」判決以來唯一主義ヲ認ムルニ至レリ米國ニ於テモ「アバンドン」對「フリンデ」イ「イター」判決以來亦複住所ヲ一般ニ否認スルニ至レリ佛國ニ於テハ「フアハ」リ「エ」氏ノ書ニ依レハ現行民法施行前ニ於テハ全ク複住所ヲ認メタリシカ今日ニ於テハ一般ニ之ヲ否認スルニ至レリ而シテ「ムハイム」氏ノ説ニ依レハ佛國ニ於テ此ノ如ク學說ヲ一定セシハ佛國民法第百二條「ブランシバール」ニテ「ブ」リシ「ユマン」生計ノ主要地「テ」ル文字ノ解釋ノ結果ナリトス

羅馬ニ於テハ「ウルピヤン」及「ロバウルス」以來一般ニ複住所ヲ認メタリシカ獨逸現行ノ學說モ亦一般ニ之ヲ認メタリ而シテ同國ノ現行民法ニ於テハ特ニ明文ヲ揭ケテ複住所ヲ認メ以テ將來起ルヘキ學說ノ紛糾ヲ豫防セリ今複住所ヲ認メタル獨逸新民法ノ草案理由書ヲ見ルニ其說明頗ル簡單ナリ即チ法律關係ノ性質ハ種種ナルカ故ニ隨テ唯一ノ中心ヲ有スルモノニアラス甲種ニ屬スル法律關係ハ乙種ニ屬スル法律關係ト其集合地ヲ異ニセサルヘカラス是レ二箇以上ノ住所アル所以ナリ云ト其所謂權利カ其性質ヲ異ニスル云云ハ恐ラク

權利カ其體様ヲ異ニスル云云ノ意味ナルヘシト雖モ余輩ハ法律關係カ其體様ヲ異ニスルニ從ヒ其集合地ヲ異ニスルコトハ信シテ疑ハサル所ナリ例ヘハ學者カ往往例示スル甲地ニ於テ農業地ヲ有シ而シテ乙地ニ於テ製造場ヲ有スル人ニ付テ之ヲ言ハンニ農業所有者トシテ有スル法律關係ト製造場ノ所有者トシテ有スル法律關係トハ其體様ヲ異ニスヘキコト明カナルカ故ニ若シ農業地タル甲地ヲ以テ唯一ノ住所ト看做ストキハ製造場ノ所有者タル資格ニ固著スル法律關係ハ頗ル不相當ナル取扱ヲ受クルニ至ルヘシ獨逸ノ實例ヲ見ルニ數百年間複住所主義ヲ實行シタレトモ未タ會テ之カ爲メニ困難ヲ生シタルコトナシ而シテ此主義ニ反對スル英國ニ於テモ近來複住所ヲ認メタル判決例ヲ見ルニ至レリ殊ニ英國學者カ所謂單住所ノ如キハ唯一主義ヲ貫ク能ハサル證據ト看ルコトヲ得ヘシ

此ノ如ク普通ノ國法上ニ二箇以上ノ住所アリトスレハ國際私法上ニ於テモ仍ホ複住所ヲ認ムヘキヤ否ヤ獨逸ノ學說ハ國際私法上ニ於テハ全ク單獨住所ヲ認メ殊ニ「パール」ノ如キハ二箇以上ノ住所アル場合ニ於テ最後ニ取得シタル住

所ヲ標準ト爲スヘシト謂ヘリ此說ハ「パール」目テ代表シタル主觀主義ト衝突スルコトナキカ何トナレハ意思及ヒ事實ノ二要素備ヘルニアラサレハ住所ヲ構成モサルハ「パール」氏ノ意見ナリ而シテ此二要素ハ住所ヲ設定スル場合ニモ又喪失スル場合ニモ共ニ其標準ト爲ルモノニシテ若シ最後ニ住所ヲ取得シタル場合ニハ舊住所ハ當然消滅スルモノナルカ故ニ勿論住所ノ衝突ナルモノノ生スヘキ理ナシ然ルニ二箇並立シタル場合ニ於テハ「パール」氏ノ解釋ヲ聞クコト能ハス即チ甲乙二地ニ於テ住所ヲ設定シタル場合はナリ此場合ハ生後ノ事實ニ因リ設定セラルル場合ナキニアラサルモ多クハ英國學者ノ所謂固有住所ノ場合ニ多キモノトス例ヘハ獨逸人タル母カ其私生子ヲ英國ノ某地ニ於テ遺棄シタルトキハ其子ハ父母ノ分明ナラサル子トシテ生地ニ住所ヲ取得スルハ英國ノ制度ナリ之ニ反シテ獨逸ノ制度ニ依レハ私生子ハ母ノ住所ニ隨フカ故ニ若シ母カ獨逸ニ於テ住所ヲ有スルトキハ縱令認知ヲ遅ク爲シタル場合ト雖モ出生ノ當時ニ右私生子ハ獨逸國ニ於ケル母ノ住所ニ隨フモノトス即チ右私生子ハ獨逸國及ヒ英國ニ於テ住所ヲ有スルモノニシテ「パール」ハ之ニ付テ何等ノ說

明ヲ與ヘス我法例モ亦住所ノ衝突ニ付テハ國籍ノ衝突ニ關スル規定ヲ準用スルカ故ニ出生ニ因ル國籍ノ衝突ノ場合ヲ規定セサルト同シク出生ニ因ル住所ノ衝突ノ場合ニ付テモ其規定ナシ此ノ如ク住所ノ衝突ハ今日避テ得ヘカラスシテ之ニ關スル豫防手段ナキヲ見レハ住所ヲ以テ絕對ニ國際私法上ノ問題ヲ解釋スル標準ト爲スヘカラサルコトヲ知ルヘシ

次ニ法人ノ住所ヲ説明スヘシ

法人中公法ノ範圍ニ屬スルモノハ一定ノ土地ニ固著スルカ故ニ其所在地ハ即チ住所ニシテ此種ノ法人ノ住所ニ付テハ殆ト問題ヲ生セス之ニ反シテ私法上ノ法人ノ住所ニ付テハ或ハ法人ヲ設立シタル地ニ住所アリト曰フ者アリ或ハ主タル業務ヲ行フ地ニ住所アリト曰フ者アリ蓋シ法人ニ關スル法律關係ノ實際集合スルハ單ニ法人設立ノ手續ヲ施シタル地ニアラスシテ業務ヲ行フ地ニ集合スル道理ナルカ故ニ今日各國ノ實例及ヒ學說ハ我新民法ノ如ク右ニ述ヘタル第二ノ說ニ傾タニ至レリ公法上ノ法人ハ其所在地唯一ナルカ故ニ住所ノ衝突起ルヘキ理ナシト雖モ私法上ノ法人ニ至リテハ二箇以上ノ住所ヲ有スル

コトアリヤ否ヤノ問題ヲ生シタリ就中商會社ノ住所ニ付テ然リトス然ルニ今日ニ於テハ二箇以上ノ本店ヲ有スル能ハストノ前提ヨリ商會社ノ住所ハ唯一ナリト論結セリ是レ獨逸學者間ニ於テスラ尙ホ殆ト一定セル議論ナリトス故ニ支店ノ數ノ如キハ住所ニ何等ノ關係ナキモノトス之ニ反シテ法人ノ住所ハ所謂國籍ト同一ナリト曰フ者アリ例ヘハ國際私法學者トシテ今日名ヲ稱シタル獨逸ノ「チーラルマン」氏ノ如キハ法人ニ付テハ國籍ト住所トノ問題ヲ二分スルノ理由ナシトノ說ヲ吐ケリ我國ノ學者間ニ於テモ亦此問題ヲ生シタルコトアリ「パール」氏ハ國籍ト住所ト全ク別種ナルコトヲ論セリ同氏ノ說ニ依レハ主タル業務ノ地ヲ標準トシテ法人ノ住所ヲ定ムルコトハ殆ト各國ニ於テ一般ニ採用セラルル所ナルカ故ニ實際ニ於テハ住所ヲ有スル國ハ即チ法人ノ本國ナルヘシト雖モ尙ホ例外ノ制度ナキニアラサルカ故ニ此場合ニ於テハ國籍問題ト住所問題トハ之ヲ別視セサルヘカラスト

第十二章 國際私法上ニ於ケル外國法ノ性質及ヒ其適用ノ範圍

今日各國カ互ニ交通ヲ爲スノ結果其間ニ生スル法律關係ノ標準ヲ單ニ內國ノ法律ノミニ取ル能ハサルヨリ遂ニ國際私法ノ原則ヲ發生シ外國法律ヲ適用スルニ至リタルハ既ニ上文ニ説明シタル所ナリトス然ルニ此外國法ノ性質ニ付テハ今日二箇ノ學說アリ甲說ヲ主張スル者ハ主權ノ性質ヨリ打算シテ曰ク主權ハ國境ヲ超エス而シテ法律ハ主權者ノ意思表示ナルカ故ニ若シ外國ノ法律カ果シテ法律タル性質ヲ備フルモノトセハ是レ外國ノ主權カ內國ニ行ハルコトヲ認ムルモノニシテ主權ノ範圍ヲ減スル說ナリ抑モ一國內ニ二箇ノ主權カ併ヒ行ハレサルコトハ猶ホ一物同時ニ同一ノ空間ヲ充タス能ハサルカ如シ又外國ノ法律ヲ法律ナリトセハ是レ裁判官ニ不能ノ事ヲ強フルモノナリ何トナレハ裁判官ハ法律ヲ知ルノ職責アルカ故ニ右ノ說ヲ果シテ正當ナリトセハ外國ノ法律ヲ一知ラサルヘカラス一國ノ法律スラ往往其解釋ヲ誤ル今日ニ於テ外國ノ法律ヲ知ルコトノ不能ナルハ素ヨリ言フテ埃タサル所ニアラスヤト之ニ反シテ他ノ一說ニ依レハ外國ノ法律ハ內國法律ト其性質ヲ同シラスルモノナリ余輩ヲ以テ之ヲ見ルニ英國學者ノ所謂主權ハ國境ヲ超エストノ格

言ハ余輩ハ固ヨリ疑ハサル所ニシテ外國法律カ當然內國ニ效力ヲ及ホスヘカラザルコトモ亦余輩ノ首肯スル所ナリ但シ一國內ニ唯一ノ主權ノミ行ハルルコトハ今日ノ常態ナレトモ又必然的ノモノニ非ス例ヘハ「モレスチ」ニ對スル白耳義及ヒ普漏西ノ共同主權ノ如キ一國內ニ二箇ノ主權ノ併ヒ行ハルル實例ナリ然レトモ余輩ハ共同主權ノ性質ニ付テ未タ十分ノ研究ヲ爲ササルカ故ニ之ヲ評論スルコト能ハサレトモ國際私法ヲ以テ國內法ナリト斷定スルトキハ外國法ヲ以テ國內法ト同一ノ性質ヲ有スルモノトスルモ決シテ主權ハ國境ヲ超エストノ法理ニ抵觸スルモノニアラス蓋シ國內法タル國際私法カ或法律關係ニ付キ外國法ノ適用ヲ命シタルトキハ外國法ハ一變シテ國內法ト爲リタルモノナリ國際私法カ外國法ノ適用ヲ命セサル以前ニ於テハ外國法ハ一ノ事實ニ過キサリシコトハ猶ホ法律ノ承認以前ニ於ケル慣習ハ一ノ事實ニ過キサリカコトシ而シテ裁判官ハ法律ヲ知ルトノ格言ハ今日世上ニ於テ往往誤解セラレタリ蓋シ裁判官ハ法律ヲ知ルトノ格言ハ主トシテ訴訟法ニ適用セラルヘキモノニシテ國家ノ機關タル裁判官ハ主權ノ客體タル人民ニ比シ事々主權者ノ

意思ヲ知ルノ智識ニ富ムコトヲ意味スルノ語ニシテ絕對的ニアラヌシテ相對的ナリ今日何レノ文明國ニ於テモ訴訟ノ制度ニ上告ノ方法ヲ採用シタルヲ見ルモ右ノ格言ハ相對的ニ解セサルヘカラス何トナレハ上告ハ裁判官ハ法律ヲ知ラサルコトヲ豫期シテ設ケタル方法ナレハナリ郵說或ハ奇矯ニ失スル觀アルモ余輩ハ之ヲ斷言シテ揮ラサルナリ抑モ上告審ハ法律解釋ノ統一ヲ圖ルモノナリトハ世人カ一般ニ之ヲ言フ所ナレモ裁判官ニシテ法律ヲ知ルニ於テ其適用ヲ誤マリ若クハ其解釋ヲ異ニスルコトナカルヘク隨テ上告ノ制度ヲ設タル必要モ亦之ナカルヘケレハナリ而シテ今日何レノ國ニ於テモ國際私法上適用スヘキ外國法ヲ純然タル事實ト同視セサルコトハ當事者ノ證明ニ羈束官ラルルニ依リテ明カナリ故ニ當事者ノ提出シタル證據方法以外ニ於テ裁判セカ自ラ外國法ヲ知ルトキハ當然之ニ從ヒテ裁判スヘキモノナリ又普通ノ事實ト異ナルハ外國法ノ證明ニ付テハ證據方法ヲ制限セザルニ依ルモノ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ然レトモ外國法ヲ知ルコトハ困難ナルカ故ニ當事者ニ舉證ノ責ヲ負ハシメ以テ裁判官ノ智識ヲ補フコトト爲セリ

今日一體ノ學者ハ外國法證明ノ困難ヲ避ケンカ爲メニ風ニ其方法ヲ研究セシカ偶千八百八十五年國際法協會ノ開會ニ臨ミアルザ氏ハ一ノ動議ヲ提出セリ其趣意トスル所ハ各國ハ一ノ國際官廳ヲ設ケテ外國法ノ證明ヲ司ラシメ而シテ其證明ニ公正力ヲ與スルニ在リ而ルニノルザ氏ノ意見ハ協會ノ容ルル所トナラサリシカ他ノ議員ノ意見ハ却テ採用セラレタリ此意見ノ要旨ハ各國政府ヲシテ互ニ必要ナル法令ヲ交換セシメ且ツ百般ノ法令ヲ集メタル公報ヲ發行セシメントスルニ在リ然レトモ此決議ハ各國政府ニ於テ未タ實行スルニ至ラヌ然ルニ學者ハ種種ノ書ヲ公ニシテ外國法律ノ材料ニ供スルヲ見ルノミ例ヘハ「ステルツ」博士ノ發行ニ係ル條約彙纂ノ如キ「マルランヌ」(「グフケン」等ノ諸學者ノ監督ヲ經テ今日ニ傳リタルモノナリ)其他佛國ニ於ケル比較法學雜誌ノ如キ若クハ國際私法ニ關スル獨佛等ノ諸雜誌ノ如キ例ヘハ「ベーム」氏ノ國際私法雜誌ニ於テ「カーン」氏ハ日本國籍法ノ反譯ヲ公ニセリ又獨逸ニ於テ毎月二回發行スル法曹雜誌ノ如キ發刊毎ニ法律命令ヲ讀者ニ紹介セリ此ノ如ク學者ハ今日相當ノ機關ヲ備ヘテ各國ノ法律若クハ命令ヲ吾人ニ紹介スルカ故ニ吾

人カ外國法ヲ知ルハ世人ノ信スル如ク困難ナルモノニ非ス又學者ハ往往一大圖書館ヲ設ケテ各國ノ法律ヲ募集スヘシト曰フ者アリ或ハ外國ノ辯護士ニ內國ニ於ケル營業ニ便利ヲ與ヘ以テ外國法律ノ顧問ニ備フヘシトノ說ヲ唱フル者アリ然レトモ今日各國ハ互ニ公使ヲ派遣シ若クハ接受スルカ故ニ公使館ノ手ヲ經テ外國法律ノ調査ヲ爲サシムルハ最モ捷徑ナルヘシ裁判ノ場合ト少シク越テ異ニスルモ我外務省カ義ニ海外公使館ニ依頼シテ外國人ノ地位ニ關スル各國ノ制度ヲ取調ヘシメタル如キ即チ此例ニシテ此取調書ハ實際外國法律家ノ手ニ成レリト云フ

外國法ヲ適用スヘキ場合ニ當事者カ之ヲ證明スルコト能ハス又裁判官カ職權上之ヲ調査スルモ終ニ之ヲ知ル能ハサル場合ニ於テ裁判ヲ如何ニスヘキヤ此場合ニ於テ裁判官ハ宜シク內國法律ニ依リテ裁判スヘシト曰フ者アリ獨逸高等商事裁判所ノ判決ノ如キ是ナリ然レトモ國際私法カ外國法ノ適用ヲ命スル場合ニ內國ノ法律ヲ適用スルハ國際私法ノ精神ニ衝突スルコトナキカ蓋シ外國ニ適用スヘキ法律之ナキ場合ニ於テハ內國法ヲ適用スヘシトノ說ハ一理ア

ニ第二類地ヲ開墾シテ既ニ第一類地ニ異ナラサル地面ノ狀態ト爲ラシメタル後著手後十年以內又ハ續下年期中更ニ之ヲ他ノ第一類地中ノ地目タル狀態ト爲シタル場合例ヘハ原野ヲ開墾シテ一旦畑ト爲シタル者未タ其地價ヲ修正セタルニ先テ更ニ之ヲ郡村宅地ト爲シタル如キ場合ニ於テハ地租條例施行規則第七條ハ其適用ナキモノナリ此場合ニ於テハ唯開墾ノ目的地目ヲ變更シタルモノトシ著手ノ年ヨリ十年目又ハ年期明ノ時ニ至リ其時ニ於ケル現地目ニ依リ地價ヲ修正スヘキモノトス又地租條例施行規則第七條ハ開墾著手後十年以內ト明言スト雖モ其趣旨ハ未タ地價ヲ修正セザルトキニ於テト謂フニ在ルモノト解セサルヘカラス何トナレハ著手後十年目ニ至リ既ニ地價ヲ修正シ之ヲ適用シタル以上ハ開墾ナル事實ハ既ニ完成シ且ツ之ヨリ生スヘキ法律上ノ效力ハ既ニ發生シ了リタルモノナルヲ以テ開墾ノ中止ナルモノヲ生スヘキ理ナキヲ以テナリ

(ホ) 開墾著手後十年以內又ハ續下年期中ニ於テ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキ 此場合ニ關シテハ法令中特ニ何等ノ規定ヲ爲シタルモノナシト雖モ

地目變換又ハ地類變換後五年以内ニ於テ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタル場合
ト其取扱ヲ異ニスヘキ理由ヲ見サルヲ以テ該場合ニ付テ説明シタル所ハ悉ク
此場合ニ準用セラルヘキモノナリ即チ開墾ハ取消シタルモノト爲シ免租年期
明ニ至リ開墾前ノ地目ニ復シタルトキト地價ノ復舊ヲ爲シ其地目ト異ナリタ
ル地目ト爲リタルトキハ地價ノ修正ヲ爲スヘキモノトス
(二) 開拓墾下年期中地目變換又ハ地類變換ヲ爲シ若クハ荒地免租年期ノ許可
ヲ受ケタルトキ 此場合ニ關シテモ亦法令中特ニ規定シタルモノナシ開墾ト
開拓トハ實際ノ所作ニ於テハ全ク同一ニシテ唯開墾シタル土地カ初ヨリ民有
ナリシト當初ハ官有ニシテ開拓ニ因リ民有ニ歸シタルトノ差アルノミ故ニ開拓
墾下年期中ニ異動アリタル場合ニ於ケル法律上ノ效力ハ開墾墾下年期中ニ於
ケル異動ノ場合ト同一ナルヘキカ如シ然レトモ予ハ此二場合ハ其法律上ノ效
力ヲ全然異ニスヘキ大ナル理由ヲ有スルモノナリト信ス開拓ノ場合ニ於テハ
土地ノ墾闢成功シタル後既ニ第一類地ノ地目ヲ有スルモノニ對シテニ素地タ
ルノ地價ヲ付セテ墾下年期ヲ許可スルモノナルヲ以テ現ニ付シタル地價ハ其土

地カ民有ト爲リタル後ノ狀態ニ對シテハ管テ適應シタルコトナキモノナリ故ニ
年期明ニ至レハ必ス之ヲ修正セサルヘカラサルハ法律ノ豫期スル所ニシテ而
モ年期明ニ至ルマテハ故ラニ不當ノ地價ヲ適用スルコトモ亦法律ノ定ムル
所ナリ之ニ反シテ開墾ノ場合ニ在リテハ土地カ尙ホ第二類地タル時ニ於テ現
ニ之ニ適應シタル地價ヲ有スルニ對シ墾闢ノ成功スヘキ期間ヲ計リテ之ニ墾
下年期ヲ許可スルモノニシテ開墾ヲ中止シタルトキハ現ニ有スル地價ヲ適用
スルハ最モ實際ニ適スルモノナリ故ニ此ノ如キ場合ニハ法律ハ地價ノ修正ヲ
爲スコトヲ豫期セサルノミナラス之ヲ爲ササルヲ可トスルモノト謂ハサルヘ
カラス此ノ如ク二者ノ間法律上ノ取扱ヲ一ニセサルヲ以テ其效力ヲシテ全ク
同一ナラシムルコトハ事情ノ許ササルモノアリ予ハ法律カ開拓地ニ墾下年期
ヲ許可スル所以ノモノハ一定ノ年間特ニ素地ノ地價ニ依リテ其地租ヲ徵收セ
ントスル趣旨ニ出テタルモノト信スルカ故ニ此趣旨ヲ推及シテ異動ノ場合
ニ於テハ左ノ如ク決スヘキモノナリト爲スモノナリ
1 開拓墾下年期中ハ地目變換又ハ地類變換ヲ爲スモ其地價ヲ修正セズ常ニ

錄下年期明ノトキニ於テ其當時ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スヘキモノトス
 2 開拓錄下年期中荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ錄下年期ハ免租
 年期ト併ヒ行ハルモノニシテ若シ免租年期ニシテ錄下年期ノ滿了前終了ス
 ルトキハ免租年期明ノトキ原地價ニ復シ錄下年期明ノトキ地價ヲ修正ス若シ
 錄下年期ニシテ免租年期ノ滿了前終了スルトキハ錄下年期明ノトキ原地目ニ
 依リ近傍同地目ニ比準シテ地價ヲ修正シ免租年期明ノトキ原地目ニ復シタル
 トキハ其修正地價ニ依リ地租ヲ徵收シ原地目ニ復セス他ノ地目ト爲リタルト
 キハ其現況ニ依リ修正地價ニ對シ更ニ之ヲ修正シテ適用スヘキモノトス
 (下) 地價據置年期中地目變換又ハ地類變換ヲ爲シ若クハ荒地免租年期ノ許可
 ヲ受ケタルトキ 此場合ニ關シテモ亦法令中特ニ規定シタルモノナリト雖モ
 地目變換後五年以內ニ土地ノ異動ヲ爲セタル場合ニ付キ地租條例施行規則ノ
 規定スル所ハ正ニ此場合ニ準用セラレ得ルコト何等ノ疑ヲ容レサルナリ
 二 地價ヲ修正スル方法
 地價修正トハ土地ノ現況ニ應スル地價ヲ定メ之ヲ以テ從來ノ地價ニ代フルコ

トヲ謂フモノナルカ故ニ地價修正ト地價設定トハ實際ノ所作ニ於テハ殆ト全
 ク同一ナルモノト謂フテ可ナリ隨テ地價ノ設定方法ニ付キ既ニ論述シタル所
 ハ悉ク之ヲ地價修正ノ場合ニ應用スルコトヲ得ヘシ故ニ予ハ茲ニ再ヒ之ヲ反
 覆スルノ勞ヲ取ラサルナリ

三 地價修正ニ伴フ納稅義務ノ區分

地價修正トハ新ニ地價ヲ定メテ之ヲ舊地價ニ代フルヲ謂フモノナルコトハ右
 述フル所ノ如シ故ニ之ニ伴フ納稅義務ノ區分モ亦地價設定ノ場合ニ於ケル
 相違アルヘキ理アルヲ見ス即チ地價設定ノ場合ニ於テハ土地カ有租地ト爲
 タル時ニ地價ヲ設定シ其年ヨリ之ニ依リ地租ヲ徵收スルカ如ク地價修正ノ場
 合ニ於テモ原則トシテハ法律上地價修正ヲ爲スヘキ時ニ於テ之ヲ修正シ其年
 ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ賦課スヘキモノトス地租條例第一四條但シ法律ニ於
 テ特ニ修正地價ヲ適用スヘキ時期ヲ定メタルトキハ之ニ依ルヘキハ無論ナリ
 而シテ法律ニ於テ特ニ修正地價ヲ修正スヘキ時期ヲ定ムルハ唯地目變換ノ場
 合アルノミ地租條例第一〇條第二項此事タル地價ノ修正ヲ爲スヘキ場合ニ付

テ説明スルニ當リ畧ホ之ヲ述ヘタルヲ以テ今茲ニ再ヒ之ヲ説カス
土地カ有租地ト爲リタル場合ニ於テ直チニ地價ヲ設定セス後年ニ至リ始メテ
之ヲ設定シタルトキハ何レノ年ヨリ地租ヲ賦課スヘキヤハ地租條例ノ解釋上
重要ナル問題ニシテ之ニ對シテハ根本ニ於テ全ク相違シタル二大議論カ互ニ
其主張ヲ執テ相讓ラサルコトハ既ニ之ヲ述ヘタル此問題ハ地價修正ノ場合ニ
於テモ亦之ヲ起スコトヲ得ヘシ即チ地價修正ヲ爲スヘキ年ニ於テ之ヲ修正セ
ス後年ニ至リ之ヲ修正シタルトキハ何レノ年ヨリ修正地價ヲ適用スヘキヤ此
問題ニ關シテモ地價設定ノ場合ト殆ト同一ノ論旨ヲ以テ二説互ニ主張スル
所アリ予ハ此場合ニ於テモ地價修正ノ場合ニ付テ述ヘタルト同一ノ理由ヲ以
テ地價ノ修正ヲ爲スヘキ年ヨリ修正地價ヲ適用スヘキモノト爲ス者ナリト
雖モ此場合ニ於テハ地租條例第十四條ノ規定アルヲ以テ反對論者ハ成文上ノ
重要ナル根據ヲ有スト信スルモノノ如シ故ニ他ノ論者ハ更ニ之ヲ重複スルノ
必要ヲ見スト雖モ地租條例第十四條ノ規定ニ付テハ一言ヲ費ササルヲ得ス該
條ハ之ヲ一讀スルトキハ地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵

收ス下アルヲ以テ一見事實修正ヲ爲シタル年ヨリ修正地價ヲ適用スヘキモノ
ノ如シト雖モ此ノ如キハ法律ノ皮相ヲ見テ其精髓ヲ見サルモノナリ地租條例
ハ一方ニ於テ其第十條第二項ヲ以テ五年以内ニ地價ヲ修正シ六年目ヨリ之ニ
依リ地租ヲ徵收スヘキコトヲ定メ其第三項及ヒ第十九條ヲ以テ六年目又ハ銀
下年期明若クハ地價據置年期明ノトキ地價ヲ修正スヘキコトヲ規定シ他ノ一
方ニ於テ其第十四條ヲ以テ地價ヲ修正シタル土地ハ其年ヨリ修正地價ヲ適用
スヘキコトヲ定ム一法律中ノ各條文ハ互ニ其實質ナル執行ヲ豫期レテ規定セ
ラレタルモノト謂ハサルヘカラサルカ故ニ地租條例第十四條ノ規定ハ其第十
條及ヒ第十九條カ確實ニ執行セラルヘキコトヲ豫期スルモノト謂ハサルヘカ
ラス故ニ其意ハ地價ヲ修正スヘキ年ニ於テ之ヲ修正シ其年ヨリ之ニ依リテ地租
ヲ徵收スト云フニ在ルモノト爲ササルヲ得ス隨テ修正スヘキ年ニ地價ヲ修正
セサリシトキハ修正ヲ爲スヘキ年ヨリ之ヲ適用スヘキモノニシテ事實修正ヲ
爲シタル年ヨリ之ヲ適用スヘキモノニアラサルナリ若シ然ラスト言ハハ行政
官又ハ土地所有者ノ怠慢ノ爲メ或ハ地租負擔ノ一部ヲ免ルルコト爲リ又ハ

過重ノ負擔ヲ爲スコト爲ルヘシ法律ハ豈ニ此ノ如キ不公平ノ結果ヲ生ゼン
ムヘキコトヲ期シテ制定セラレタルモノナランヤ反對論者ハ地租條例施行規
則第九條ヲ引用シ地租條例ノ施行ノ爲メ地目變換ヨリ六年目以後ニ於テ變換
アリシコトヲ發見シタルトキハ發覺ノ年ニ於テ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地
價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキ規定ヲ爲シタルハ地租條例ノ趣旨正ニ事實修正ヲ
爲シタル年ヨリ修正地價ヲ適用スルニ在ルカ爲メナリト曰フナルヘント雖モ
予ハ此ノ如ク解セサルナリ若シ論者ノ主張スル如クンハ地租條例施行規則第
九條ハ無用ノ贅文ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ此ノ如キハ地租條例第十
四條ノ正ニ規定スル所ナリト謂フヲ得ヘキヲ以テナリ予ヲ以テ之ヲ見レハ同
條ノ場合ニ於テハ特ニ此ノ如キ取扱ヲ爲スヲ相當トシテ此ノ如キ規定ヲ設ケ
ラレタルモノニシテ之ヲ以テ地租條例第十四條ノ意義ヲ定メタルモノト謂フ
コト能ハス然レトモ現今實際當局者ノ間ニ於テ解釋セラレル所ハ右論スル所
ノ如クナラス地價設定ノ場合ニ付テ述ヘタルト同シク事實地價ヲ修正シタル
年ヨリ修正地價ニ依テ地租ヲ徵收スヘキモノト爲サルルカ如シ而シテ取扱上

過重ノ負擔ヲ爲スコトト爲ルヘシ法律ハ豈ニ此ノ如キ不公平ノ結果ヲ生セシムヘキコトヲ期シテ制定セラレタルモノナラザヤ反響論者ハ地租條例施行規則第九條ヲ引用シ地租條例ノ施行ノ爲メ地目變換ヨリ六年目以後ニ於テ變換アリシコトヲ發見シタルトキハ發覺ノ年ニ於テ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキ規定ヲ爲シタルハ地租條例ノ趣旨正ニ事實修正ヲ爲シタル年ヨリ修正地價ヲ適用スルニ在ルカ爲メナリト曰フナルヘシト雖モ予ハ此ノ如ク解釋セサルナリ若シ論者ノ主張スル如クンハ地租條例施行規則第九條ハ無用ノ贅文ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ此ノ如キハ地租條例第十四條ノ正ニ規定スル所ナリト謂フヲ得ヘキヲ以テナリ予ヲ以テ之ヲ見レハ同條ノ場合ニ於テハ特ニ此ノ如キ取扱ヲ爲スヲ相當トシテ此ノ如キ規定ヲ設ケラレタルモノニシテ之ヲ以テ地租條例第十四條ノ意義ヲ定メタルモノト謂フコト能ハス然レトモ現今實際當局者ノ間ニ於テ解釋セラルル所ハ右論スル所ノ如クナラス地價設定ノ場合ニ付テ違ヘタルト同シク事實地價ヲ修正シタル年ヨリ修正地價ニ依テ地租ヲ徵收スヘキモノト爲サルルカ如シ而シテ取扱上

●和佛法律學校生徒募集

本校講堂増築落成ニ付本年ヨリ更ニ講師ヲ増聘シ最モ最新ノ學理ニ基キ懇切ニ法律學ヲ教授ス入學者ハ速ニ申込マルヘシ

●甲種生徒

入學試験ハ隨時ニ舉行ス

●本學年擔當講師左ノ如シ

- 憲法 副島學士○平時國際公法 中村學士○戰時國際公法 秋山學士○行政法總論 竹井學士
- 行政法各論 岡學士○法學通論 宮本學士○財政學 下村學士○經濟學 金井博士、矢作學士
- 國際私法 寺尾博士○刑法(各論) 古賀學士○刑事訴訟法 鶴見學士○民法(一編三章) 鶴學士○民法(二編四章) 塚田學士○民法(二編七章) 荒井學士○民法(二編七章) 富井學士○民法三編(第一章) 棟居學士○民法三編(第二章第一節) 梅博士○民法第二編(第三節以下) 兩角學士○民法第四編(第一章) 掛下學士○民法第五編 若槻學士○商法(第一章及第三編) 松本學士○民法第四編
- 民法第五編 矢部學士○商法第五編 內田學士○破產法 松岡學士○民事訴訟法(第一章) 玉木學士○商法第四編 岩田學士○民事訴訟法(第二章以下) 松岡學士
- 民法第二編 遠藤學士○民事訴訟法(第三編乃至第五編) 岩田學士○民事訴訟法(以下)

●高等科生徒

何時ニテモ入學ヲ許可ス

●校外生募集

本校講義録ハ三部ニ分チ各自ノ望ニ應ジ隨時申込ルヘシ滿一ケ年完結全部月謝壹圓各一部拾錢入學金ヲ要セス

●規則書入用ノ向ハ郵券貳錢ヲ送ルヘシ

三十三年度 校外生規則摘要

- 一 講義録ハ毎月各部二回發行シ滿一今年ヲ以テ卒業トス
- 一 一今年ヲ以テ完了セサルトキハ號外ヲ發ス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
 - 第一部 毎月 五日 二十日
 - 第二部 毎月 十日 廿五日
 - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部書圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講議會、討論會ニ出席傍聴スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試驗ノ上校內生三年級ニ編入セラルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三個月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係宛トスヘシ

明治廿二年十二月九日 內務省許可

明治三十三年九月廿一日印刷

明治三十三年九月廿五日發行

編輯者
東京市芝區四谷中町三丁目三十八番地
小田 幹 治 郎

印刷者
東京市芝區四ノ久保明倉町十一番地
金子 鐵 五 郎

印刷所
東京市芝區四ノ久保明倉町十一番地
金子 活 版 所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)